

明治三十三年八月八日 福岡縣令第六五號

第一章 總則

第一條 目的

本規則は、教育資金の貸付に關する事項を規定し、以て教育資金の貸付を適正ならしめ、教育の進歩を期することを目的とする。

第二條 適用の範囲

本規則は、本市に在る公立の小学校、小學校、幼稚園、及び児童養護施設に適用する。

本市に在る私立の小学校、小學校、幼稚園、及び児童養護施設は、本規則の趣旨に適合する限り、本規則の適用を受ける。

本市に在る私立の小学校、小學校、幼稚園、及び児童養護施設は、本規則の趣旨に適合する限り、本規則の適用を受ける。

本市に在る私立の小学校、小學校、幼稚園、及び児童養護施設は、本規則の趣旨に適合する限り、本規則の適用を受ける。

本市に在る私立の小学校、小學校、幼稚園、及び児童養護施設は、本規則の趣旨に適合する限り、本規則の適用を受ける。

本市に在る私立の小学校、小學校、幼稚園、及び児童養護施設は、本規則の趣旨に適合する限り、本規則の適用を受ける。

本市に在る私立の小学校、小學校、幼稚園、及び児童養護施設は、本規則の趣旨に適合する限り、本規則の適用を受ける。

本市に在る私立の小学校、小學校、幼稚園、及び児童養護施設は、本規則の趣旨に適合する限り、本規則の適用を受ける。

本市に在る私立の小学校、小學校、幼稚園、及び児童養護施設は、本規則の趣旨に適合する限り、本規則の適用を受ける。

第二章 教育資金の使用ニ關スル規則

明治三十三年八月八日 福岡縣令第六五號

第一條 教育資金令第五條ニ依リ市町村立尋常小學校ノ設備費ヲ貸付スルノ順序ハ

左ノ各項ニ該當スルモノヲ先ニシ之ニ次クヘキモノヲ後ニスヘシ但單級學校ノ設

備費ニ關シテハ多級學校ヲ設立スル市町村ニ先チ貸付スルコトアルヘシ

一 校地校舍ノ設備最不完全ニシテ新築改築増築ヲ急要ト認ムルモノ

二 小學教育ニ關スル經常費支出額其市町村ノ經常費支出總額ノ二分ノ一以上ナ

ルモノ

第二條 左ノ各項ニ該當スルモノハ其實況ヲ調査シ前條ノ順序ニ拘ハラズ特ニ貸付

ヲ爲スコトアルヘシ

一 風火震水等ノ災害ニ依リ校舍校地ヲ破壊シ又ハ亡失シタルトキ

二 不時ノ變災又ハ特別ノ事情ニ依リ市町村臨時費ノ支出額多額ナル場合ニ於テ

校舍ノ新築改築又ハ増築等ヲ必要トスルトキ

第三條 第一條第二條ノ各項ニ該當スルモノ其市町村ノ資力學校設備ノ費用ヲ支出ス

ルニ堪フルト認ムルトキ又ハ其年度内教育資金支出ノ都合ニ依リテハ貸付ヲ許可

セサルモノトス

第四條 尋常高等小學校ノ設備費ヲ貸付スルトキハ其總費額ノ五分ノ三ヲ以テ尋常

小學校ノ設備費ト見做シ之ニ對シ貸付金額ヲ定ム

教育資金使用ニ關スル規則

第五條 貸付金ノ申請ハ其年四月迄ニ工事ノ順序及完成時期償還方法ヲ定メ豫算書ト共ニ之ヲ差出スヘシ但第二條ノ場合ハ本條ノ時期ニ拘ラス隨時申請スルコトヲ得

第六條 區ノ負擔ニ屬スル設備費ニ就キ其市町村ヨリ貸付ヲ申請シタルトキハ其市町村ニ於テ設備スルモノト同視シ處理スルモノトス

第七條 町村組合町村學校組合ニ就キテハ一町村ト同視シ處理スルモノトス

第八條 貸付金額ハ百圓ヲ以テ最寡額トス

第九條 償還期限ハ五ヶ年以内トス但特別ノ場合ニ於テハ十ヶ年迄延期スルコトアルヘシ

第十條 貸付金ノ利子ハ一箇年度ヲ二期(三月九月)ニ區分シ之ヲ徵收ス但利子ハ貸付翌月ヨリ返納ノ當月迄之ヲ付ス

第三編 市町村及高等女學校

第五條 貸付金ノ申請ハ其年四月迄ニ工事ノ順序及完成時期償還方法ヲ定メ豫算書ト共ニ之ヲ差出スヘシ但第二條ノ場合ハ本條ノ時期ニ拘ラス隨時申請スルコトヲ得

第六條 區ノ負擔ニ屬スル設備費ニ就キ其市町村ヨリ貸付ヲ申請シタルトキハ其市町村ニ於テ設備スルモノト同視シ處理スルモノトス

第七條 町村組合町村學校組合ニ就キテハ一町村ト同視シ處理スルモノトス

第八條 貸付金額ハ百圓ヲ以テ最寡額トス

第九條 償還期限ハ五ヶ年以内トス但特別ノ場合ニ於テハ十ヶ年迄延期スルコトアルヘシ

第十條 貸付金ノ利子ハ一箇年度ヲ二期(三月)ニ區分シ之ヲ徵收ス但利子ハ貸付翌月ヨリ返納ノ當月迄之ヲ付ス

第二編

中學校及高等女學校

●第二編 中學校及高等女學校

◎總 規

○中 學 校 令 明治三十二年二月六日
勅令第三十八號

朕中學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應シ一箇以上ノ中學校ヲ設置スヘシ

文部大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ府縣ニ中學校ノ増設ヲ命スルコトヲ得

第三條 前條ノ中學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第四條 都市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ

區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得

第六條 土地ノ情況ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ經テ

之ヲ設置スルコトヲ得但シ一校ニ付一分校ニ限ル

第七條 中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

中學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

(明治三十二年文部省令第十四號ヲ以テ設置廢止規則公布)

第八條 公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 中學校ノ修業年限ハ五箇年トス但シ一箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條 中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 中學校ノ學科及其程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

中學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

中學校教員免許狀ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 公立中學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十五條 中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

(明治三十一年文部省令第三號ヲ以テ編制及設備規則公布)

第十六條 公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ニ關スル規則ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十七條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ中學校ト稱スルコトヲ得ス

第十八條 本令施行ノ爲メニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第十九條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十條 既設ノ尋常中學校分校ニシテ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經テ本令施行ノ日ヨリ五箇年以内存置スルコトヲ得

第二十一條 明治十九年勅令第十五號中學校令第十二條ニ依リ設置シタル農業工業商業等ノ専修科ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ノ卒業スル迄之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條 既設ノ公私立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ中學校ト改稱ス他ノ法令中尋常中學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

○高等女學校令 明治三十二年二月七日 勅令第三十一號

- 第一條 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第二條 北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ
前項ノ校數ハ土地ノ情況ニ應ジ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ地方長官之ヲ定ム
- 第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス
- 第四條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第五條 郡市町村立ノ高等女學校ニシテ府縣立高等女學校ニ代用スルニ足ルヘキモノアルトキハ地方長官ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ府縣費ヲ以テ相當ノ補助ヲ與ヘ第二條ノ設置ニ代フルコトヲ得
- 第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第七條 高等女學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
高等女學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

(明治三十二年文部省令第十四號ヲ以テ設置廢止規則公布)

- 第八條 公立高等女學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム
- 第九條 高等女學校ノ修業年限ハ四箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ一箇年ヲ伸縮スルコトヲ得

高等女學校ニ於テハ二箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 高等女學校ニ於テハ女子ニ必要ナル技藝ヲ專修セシトスル者ノ爲ニ技藝專修科ヲ置クコトヲ得

高等女學校ニ於テハ其ノ卒業生ニシテ某學科ヲ專攻セシトスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得

第十二條 高等女學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

(明治三十二年文部省令第七號ヲ以テ學科及其ノ程度ニ關スル規則公布)

第十三條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スルノ必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

高等女學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

(明治三十二年文部省令第二十三號ヲ以テ教科用圖書檢定規則中追加)

第十四條 高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等女學校教員ノ免許ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十五條 公立高等女學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十六條 高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

(明治三十二年文部省令第五號ヲ以テ編制及設備規則公布)

第十七條 公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ニ關スル規則ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十八條 本令ノ規定ニ依リサル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得ス

第十九條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受テ本令施行ノ日ヨリ四箇年以内第二條ノ設置ヲ延期スルコトヲ得

○中學校令施行規則 明治三十四年三月五日
文部省令第三號

第一章 學科及其ノ程度

第二章 學年教授日數及式日

第三章 編制

第四章 設備

第五章 設置及廢止

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第七章 補則

第八章 附則

中學校令施行規則

第一章 學科及其ノ程度

第一條 中學校ノ學科目ハ修身、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、唱歌、體操トス
外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス
法制及經濟、唱歌ハ當分之ヲ缺クモトシ得

第二條 修身ハ教育ニ關スル勸諭ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル男子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメムコトヲ期シ實踐躬行ヲ勸獎ス

ルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ進ミテハ
稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシメ又倫理學ノ一
班ヲ授クヘシ

第三條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ
得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ兼テ知徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス
國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又實
用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要、國文學史ノ一般ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講
讀セシメ且習字ヲ授クヘシ

第四條 外國語ハ普通ノ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ
兼テ知識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミ
テハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條 歴史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理
會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス
歴史ハ日本歴史及外國歴史トシ日本歴史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要
ナル事蹟ヲ授ケ外國歴史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著名ナル

諸國ノ興亡、人文ノ發達及我國ノ文化ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシムヘシ

第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國
及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ又地文
ノ一斑ヲ授クヘシ

第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ
以テ要旨トス

數學ハ算術、代數、幾何及三角法ヲ授クヘシ

(明治三十五年二月文部省令第二号ヲ以テ改正同四月一日施行)

第八條 博物ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシ
ムルヲ以テ要旨トス

博物ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識並ニ人體ノ構造、生理及衛
生ノ大要ヲ授クヘシ

第九條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ人生ニ對スル關
係ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

物理及化學ハ重要ナル物理上化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化
合物ニ關スル知識ヲ授クヘシ

第十條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ現行法規ノ大要及理財、財政ノ一斑ヲ授クヘシ

第十一條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫又ハ用器畫トシ自在畫ニ於テハ寫生ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシメ用器畫ニ於テハ幾何畫ヲ授クヘシ

第十二條 唱歌ハ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ德性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

唱歌ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌、複音唱歌ヲ授クヘシ

第十三條 体操ハ身体ノ各部ヲ均濟ニ發育セシメテ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ精神ヲ快活剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

体操ハ普通体操及兵式体操トシ普通体操ニ於テハ矯正術、徒手体操、啞鈴体操、球竿体操及棍棒体操ヲ授ケ兵式体操ニ於テハ柔軟体操、器械体操、各個教練、小隊教練及中隊教練ヲ授クヘシ

第十四條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身		二	一	一	一	一
國語及漢文		七	七	七	六	六
外國語		六	六	七	七	七
歷史						
地理		三	三	三	三	三
數學		四	四	四	四	四
博物		二	二	二	二	二
物理及化學				第二、三學期 二	第一、二學期 一	四
法制及經濟					第三學期 四	四
圖畫		一	一	一	一	二
唱歌		一	一	一		
体操		三	三	三	三	三

計

二八

二八

二九

三〇

三〇

三七二

法制及經濟ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ外國語、歴史、地理ニ唱歌ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ圖畫ニ配當スヘシ
 前表ノ外生徒ノ志望ニ依リ第五學年ニ於テ圖畫一時ヲ課スルコトヲ得體操ハ前表ノ教授時數ヲ三時以內増加シテ之ヲ課スルコトヲ得 (全上改正)

本令施行ノ際現ニ中學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ハ便宜斟酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得 (全上改正)

第十五條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ
 補習科ノ各學科目ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二章 學年、教授日數及式日

第十六條 學年ハ四月一日ヨリ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
 學年ハ分チテ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日マテトシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテトシ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテトス

前二項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第十七條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文

部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラズ

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セズ

第十八條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ道府縣立以外ノ中學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第十九條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十條 中學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ六百人マテ之ヲ増スコトヲ得

分校ノ生徒數ハ三百人以下トス

補習科ノ生徒數ハ前學年ニ於テ當該學校ヲ卒業シタル者ノ數ヲ超ニルコトヲ得ス

前項ノ生徒數ハ第一項ノ生徒數ニ算入セズ

第二十一條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第二學年以上ニ於ケル各學年ノ學級數ハ第一學年ノ學級數ニ超過スルコトヲ得ス

中學校令施行規則

三七三

但シ特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス
前項ノ場合ニ於テ分校ノ學級數ハ本校ノ學級數ニ算入ス(明治三十六年七月三日文部省令第二十八號ヲ以テ第三項追加)
本令(明治三十六年七月三日文部省令第二十八號)第二十二條ニ關スル改正ノ規定ハ明治三十七年三月三十一日迄之ニ依ラサルコトヲ得

第三十二條 修身、唱歌及体操ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第三十三條 分校ニハ第四學年以上ノ生徒ヲ置クコトヲ得ズ

第二十四條 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ネズ又ハ他ノ職ヨリ兼ネサルコトヲ要ス

第四章 設 備

第二十五條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備ヘ又必要ノ場合ニハ寄宿舎ヲ設クヘシ

第二十六條 校地、校舍及體操場ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス

校地ハ道德上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナラシムコトヲ要ス

(明治三十七年二月文部省令第三號ヲ以テ以上二條改正)

第二十七條乃至第三十二條 (全上削除)

第三十三條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第三十四條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

- 一 中學校ニ關係アル法令
- 二 學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫視察簿
- 三 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿並ニ擔任學科目及時間表
- 四 生徒ノ學籍簿、出席簿、身体検査ニ關スル表及徴兵猶豫ニ關スル書類
- 五 入學試験及學年試験ノ問題、答案及成績表
- 六 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、器械、器具、標本、模型ノ目錄
- 七 往復書類

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其學年、卒業ノ年月日、入學試験ノ有無、轉學、退學ノ事由、徴兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ(明治三十五年二月文部省令第二號及三)
第一項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十五箇年以上之ヲ保存シ其ノ他ノ表簿ハ五箇年以上保存スヘシ(明治三十六年七月三日文部省令第二十八號ヲ以テ改正)

第三十五條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舎監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十六條 校舍、寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ道廳府縣立中學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘク其ノ他ノ中學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘシ

第三十七條 (明治三十七年二月文部省令第三號ヲ以テ削除)

第五章 設置及廢止

第三十八條 中學校又ハ其ノ分校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 名稱

二 生徒定員

三 開校年月

四 經費及維持ノ方法

前項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第三號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質、屋外操場ノ區域、面積竝ニ

附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ

第三十九條 中學校又ハ其ノ分校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其事由及生徒ノ處分方法ヲ文部大臣ニ申請スヘシ

中學校ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ第三十四條第一項第四號ノ生徒學籍簿ヲ地方長官ニ提出スヘク地方長官ハ十五箇年以上之ヲ保存スヘシ監督官廳ノ命令ニ依リ中學校ヲ閉鎖シタルトキ亦同シ (明治三十六年七月三日文部省令第二十八號ヲ以テ追加)

第四十條 公立中學校ノ費用負擔者ヲ變更シ、私立中學校ヲ公立中學校ニ公立中學校ヲ私立中學校ニ變更シ、若ハ分校ヲ獨立ノ中學校トナサントスルトキハ第卅八條第一項ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第四十一條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二學期及第三學期ノ始メヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得前項ノ規定ハ補習科ノ生徒入學ニ關シテハ之ヲ適用セス (全上追加)

第四十二條 第一學年入學志願者中高等小學校第二學年ノ課程ヲ終ラサル者ニ就テハ試驗ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

第一學年入學志願者中高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許スコトヲ得

高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒リタル者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試験ニ依リテ入學者ヲ選抜スヘシ

第四十三條 前條第一項ノ試験ハ國語、算術、日本歴史、地理ニ就キ同條第三項ノ試験ハ國語、算術ニ就キ高等小學校第二學年ノ程度ニ依リテ之ヲ行フヘシ

第四十四條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキモノハ相當年齢ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ檢定スヘシ

第四十五條 中學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年以内ニ於テ

中學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル中學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限り試験ニ依ラサルコトヲ得 (三十六年七月三日文部省令第二十八號ヲ以テ改正)

第四十六條 他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリ

ト認メタル場合ニ限り其ノ生徒ノ在學證書及成績表ヲ移轉先學校ニ送附スヘシ

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限り前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試験ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコ

トヲ得

第四十七條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正確ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

(明治三十五年二月六日文部省令第二號ヲ以テ但書追加)

試験ハ分テ學期試験及學年試験トシ學期試験ハ第一學期及第二學期內ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験ハ學年末ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ノ爲ニ特ニ追試験ヲ行フコトヲ得 (同上)

試験ハ國語及漢文、外國語、數學、圖畫、唱歌、体操ニ就キテハ之ヲ行ハサルヲ得

第四十八條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第四十九條 學校長ハ中學校ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者タルヘシ

補習科生徒ノ在學期間ハ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

補習科ヲ修了シ又ハ退學シタル者補習科ニ再入學スルトキハ其ノ修了又ハ退學前

ニ於ケル補習科在學ノ期間ハ之ヲ前項ノ期間ニ算入ス

學校長ハ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ左ノ各号ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一箇年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

第五十二條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十三條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキニハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 補 則

第五十四條 中學校ノ學則ヲ定メタルトキハ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之

ヲ變更シタルトキ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 休業日ニ關スル事項

二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項(明治三十五年二月六日文部省令第二號ヲ以テ改正)

四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 授業料、入學料ニ關スル事項

六 寄宿舎ニ關スル事項

第五十五條 道廳府縣立以外ノ中學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官
ヲ經由スヘシ

前項ノ文書中、學校ノ設置及廢止ニ關スル申請ニ就キテハ地方長官ハ其ノ意見ヲ
具スヘシ

第五十六條 本令中、學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其ノ學校ヲ代表シ校務ヲ
掌理スル者ヲ包含ス

第八章 附 則

第五十七條 本令ハ明治卅四年四月一日ヨリ施行ス

第五十八條 本令施行ノ際現ニ中學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度
ニ關シテハ其ノ生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第五十九條 明治二十七年文部省令第七號及同第十三號ノ規定ニ依リ設ケタル中學
校ノ實科ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依
ル

第六十條 明治卅二年文部省令第三號第二十三條乃至第二十五條ノ規定ニ依リ中學
校ノ編制及設備ニ關シ文部大臣ノ與ヘタル認可ハ本令ノ規定ニ依リ其ノ効力ヲ失
フコトナシ

第六十一條 明治十九年文部省令第十四號、明治二十七年文部省令第七號、同第十

三號、明治卅二年文部省令第三號、同第四號、同第十四號、同第三十三號ハ之ヲ廢止ス

○高等女學校令施行規則 明治三十四年三月二十二日 文部省令第四號

第一章 學科及其ノ程度

第二章 學年、教授日數及式日

第三章 編制

第四章 設備

第五章 設置及廢止

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第七章 補則

第八章 附則

高等女學校令施行規則

第一章 學科及其ノ程度

第一條 高等女學校ノ學科目ハ修身、國語、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス但シ修業年限ヲ短縮シタル學校ニ於テハ外國語ヲ缺ク

外國語ハ英語又ハ佛語トス

外國語ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

高等女學校令施行規則

第一項ノ學科目ノ外隨意科目トシテ教育、手藝ノ一科目又ハ二科目ヲ加フルコト

ヲ得但シ修業年限ヲ短縮シタル學校ニ於テハ此ノ限ニアラス

第三條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以

上ノ社會ニ於ケル女子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメシコトヲ期シ實踐躬行ヲ勸奨ス

ルヲ以テ要旨トス

第三條 國語ハ普通ノ言語、文書ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シ

メ文學上ノ趣味ヲ養ヒ兼テ智識ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語ハ現時ノ文章トシテ主トシテ精讀セシメ進ミテハ近古ノ文章ニ及ホシ又實用簡易

ナル文書トシテ文法及大意及習字ヲ授クヘシ

第四條 外國語ハ普通ノ英語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ智

識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミ

テハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條 歴史ハ歴史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化ノ由來ヲ理會セシ

メ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

歴史ハ我國ノ國初ヨリ現時ニ至ルマデノ重要ナル事蹟ヲ授ケ兼テ外國歴史ノ大要

ヲ授クヘシ

第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國

及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ兼テ地

文ノ一斑ヲ授クヘシ

第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ生活上必要ナル事項ヲ知

ラシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術ヲ授クヘシ又學校ノ修業年限ニ應シ代數ノ初歩及平面幾何ノ初歩ヲ授

クルコトヲ得

第八條 理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ其ノ相互及人

生ニ對スル關係ヲ理會セシメ兼テ日常ノ生活ニ資スルヲ以テ要旨トス

理科ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、人體ノ構造、生理及衛生

ノ大要並ニ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化

合物ニ關スル知識ヲ授クヘシ

第九條 圖書ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ

美感ヲ養フヲ以テ要旨トス
圖書ハ自在書トシ寫生書ヲ主トシ臨書ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ書カシムヘシ

前項ノ外幾何諸ノ初步ヲ授クルコトヲ得

第十條 家事ハ家事整理上必要ナル知識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、清潔ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス
家事ハ衣食住、看病、育兒、家計簿記其ノ他一般家ノ整理、經濟等ニ關スル事項ヲ授クヘシ

第十一條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方及繕ヒ方ヲ授クヘシ

第十二條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌及複音唱歌ヲ交ヘ樂器使用法ヲ授クヘシ

第十三條 体操ハ身体ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ容儀ヲ整ヘ精神ヲ快活ニシ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

体操ハ普通体操及遊戲トシ普通体操ニ於テハ矯正術、徒手体操、啞鈴体操ヲ授ケ又便宜球竿体操及豆囊体操ヲ授クヘシ

第十四條 教育ハ教育ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ家庭教育ニ資スルヲ以テ要旨トス

教育ハ教育ノ理論ノ大要ヲ授クヘシ
第十五條 手藝ハ女子ニ適切ナル手藝ヲ習ハシメ指手ノ動作ヲ巧緻ナラシメ兼テ勤勉ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

手藝ハ編物、組絲、囊物、刺繡、造花等土地ノ情況ニ適切ナルモノヲ授クヘシ

第十六條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身		二	二	二	二
國語		六	六	五	五
外國語		三	三	三	三
歷史		三	三	二	三
地理		三	三	二	三

計	手藝	教育	体操	音樂	裁縫	家事	圖書	理科	數學
二八			三	二	四		一	二	二
二八			三	二	四		一	二	二
二八			三	二	四	二	一	二	二
二八			三	二	四	二	一	一	二

三八八

教育ヲ加ヘタルトキハ其ノ每週教授時數ハ二時トシ第四學年ニ於テ國語ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充テ手藝ヲ加ヘタルトキハ其ノ每週教授時數ハ二時トシ二學年以上裁縫ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充ツヘシ又外國語ヲ缺キタル學校ニ於テ

ハ其ノ每週教授時數ハ便宜他ノ學科目ニ配當スヘシ
 修業年限ヲ延長シタルトキハ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	二	二	二	二	二
國語	六	六	六	五	五
外國語	三	三	三	三	三
歷史	三	三	三	二	二
地理	三	三	三	二	二
數學	二	二	二	二	二
理科	二	二	二	二	二
圖書	一	一	一	一	一
家事				二	四
裁縫	四	四	四	四	四

高等女學校令施行規則

三八九

音樂	二	三	二	二
體操	三	三	三	三
教育				
手藝				
計	二八	二八	二八	二八

教育ヲ加ヘタルトキハ其ノ每週教授時數ハ二時トシ第五學年ニ於テ國語ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充テ、手藝ヲ加ヘタルトキハ其ノ每週教授時數ハ二時トシニ學年以上裁縫ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充ツヘシ又外國語ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜他ノ學科目ニ配當スヘシ

修業年限ヲ短縮シタル各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年
國語	八	八	七
修身	二	二	二

土地ノ情況ニ依リ前三表中各學科目ノ每週教授時數ヲ増減スルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ每週教授時數ハ三十時ヲ超ユルコトヲ得ス

歷史	三	三	三
地理	三	三	三
數學	二	二	二
理科	二	三	一
圖畫	二	一	一
家事	四	三	三
裁縫	四	四	四
音樂	二	二	二
體操	三	三	三
計	二八	二八	二八

第十七條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ
補習科ノ各學科目ハ隨意科目トナスコトヲ得

第十八條 技藝專修科ノ修業年限ハ二箇年乃至四箇年トス

第十九條 技藝專修科ノ學科目ハ技藝ニ關スル學科目ノ外修身、國語、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、体操トス
數學、理科、圖畫ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スコトヲ得
音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

技藝ニ關スル學科目ノ種類及各學科目ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 專攻科ノ修業年限ハ二箇年又ハ三箇年トス

第二十一條 專攻科ノ學科目及其ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 補習科、技藝專修科及專攻科ノ每週教授時數ハ三十時ヲ超ユルコトヲ得ス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十三條 高等女學校ノ學年、教授日數及式日ニ關シテハ中學校令施行規則第十六條乃至第十九條ノ規定ヲ準用ス

第三章 編制

第二十四條 高等女學校ノ生徒數、學級ノ編制及教員ノ數ニ關シテハ中學校令施行

規則第二十條第一項、第二十一條及第二十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十五條 修身、音樂、体操及手藝ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ教授スルコトヲ得
隨意科目ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シ五十八ヲ超ヘサル場合ニ限り同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第四章 設備

第二十六條 校地、校舍、寄宿舎、體操場、校具及住宅ニ關シテハ中學校令施行規則第二十五條、第二十六條、第三十三條、第三十五條及第三十六條ノ規定ヲ準用ス
(明治三十七年二月文部省令第四號ヲ以テ改正)

第二十七條乃至第二十九條 (全上刪廢)

第五章 設置及廢止

第三十條 高等女學校ノ設置及廢止ニ關シテハ中學校令施行規則第三十八條乃至第四十條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ外設置ニ關スル申請ニハ修業年限ヲ具スヘシ

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第三十一條 高等女學校生徒ノ入學、在學、退學及懲戒ニ關シテハ中學校令施行規則第四十一條乃至第四十五條、第四十八條乃至第五十條第一項、第五十一條乃至

高等女學校令施行規則

第五十三條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 他ノ高等女學校ヨリ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學科程度同一ナル學校ニ限リ試験ヲ行ハズシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

中學校令施行規則第四十六條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ修身、歴史、地理、理科、家事及教育ニ就キテハ試験ヲ行フコトヲ得

第三十四條 學校長ハ補習科ヲ修了シ又ハ專攻科、技藝專修科、ヲ卒業セリト認メタル者ニハ修業證書又ハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第七章 補則

第三十五條 中學校令施行規則第五十四條乃至第五十六條ノ規定ハ高等女學校ニ關シ之ヲ準用ス

第八章 附則

第三十六條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第三十七條 本令施行ノ際現ニ高等女學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科、學科目及其ノ程度ニ關シテハ其ノ生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第三十八條 明治三十二年文部省令第五號第十四條ノ規定ニ依リ高等女學校ノ生徒

數ニ關シ文部大臣ニ於テ爲シタル指揮ハ本令ノ規定ニ依リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

第三十九條 本令施行前ニ設置シタル高等女學校ニ於テ校舍及寄宿舎ノ設備ニ關シ

本令ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ明治三十五年三月三十一日マテハ之ニ依ラサルコトヲ得

第四十條 明治三十二年文部省令第五號及同第七號ハ之ヲ廢止ス

○中學校高等女學校實業學校設置ノ爲町村學校組合ヲ

設クルコトヲ得ル規定

明治二十六年五月十七日
勅令第三十三號

第一條 町村ハ中學校高等女學校又ハ實業學校ヲ設置セシカ爲メ町村制第百十六條

第一項ニ依リ町村學校組合ヲ設クルコトヲ得

前項ノ學校組合ヲ解カントスルトキハ町村制第百十八條ニ依ル

第二條 前條ノ場合ニ於テ郡長ハ府知事ノ指揮ヲ受クヘシ

○福岡縣立中學校學則 明治三十五年三月十五日
福岡縣令第一二二號

明治三十四年三月福岡縣令第一七號福岡縣立中學校學則別紙ノ通り改正ス

福岡縣立中學校學則

第一章 休業日

第一條 中學校ノ休業日ハ左ノ如ク

- 一 教育ニ關スル勅語下賜紀念日
- 二 祝日、大祭日
- 三 日曜日
- 四 夏期休業 自七月三十一日 至八月三十一日
- 五 冬期休業 自十二月二十五日 至一月七日

第二章 學科課程及教授時數

第二條 學科課程及教授時數ヲ定ムルコト左ノ如ク但シ夏期休業後十日間ノ教授時數ハ每週十二時以内ヲ減スルコトヲ得

福岡縣立東筑中學校ニ於テハ學科課程ニ唱歌(普通樂譜法)ヲ加ヘ第一學年第二學年第三學年ノ圖書ノ教授時數各一時ヲ減シテ之ニ配當ス

(明治三十六年三月三十一日福岡縣令第一二二號ヲ以テ追加)

學科課程表

福岡縣立中學校學則

學科	學年		修身	國語及漢文	英語	歷史	地理	數學	博物	物理及化學
	第一學年	第二學年								
第一學年	第一學年	第二學年	同上	講讀(國文及漢文) 作文(七)	發音、綴字、讀方、譯解、會話、書取	日本歷史 一	日本地理 二	算術 四	礦物 二	
第二學年	第二學年	第三學年	同上	同上	同上	同上	同上	代數 二	植物 二	
第三學年	第三學年	第四學年	同上	同上	同上	同上	同上	幾何 二	衛生及動物 二	
第四學年	第四學年	第五學年	同上	同上	同上	西洋歷史 二	同上	同上	動物 二	化學 三
第五學年	第五學年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

圖畫	體育	音樂	勞作	法則及經濟	合計
自在畫 二	普通體操 三	兵式體操 三	同上		二八
同上	同上	同上	同上		二八
同上	同上	同上	同上		二九
同上	同上	同上	同上		三〇
同上	同上	同上	同上		三〇

第三章 試驗進級及卒業

第三條 諸科目中國語及漢文、英語、數學、圖畫、體操ニ就キテハ學校長ノ見込ニ依リ試驗ヲ行ハス日々ノ課業ニ基キ其成績ヲ評定スルコトヲ得

第四條 一科目ノ學期評點ハ學期試驗ノ成績ト平常ノ課業成績及出席ノ多寡トニ依リ之ヲ定ム但シ第三學期評點ハ平常課業ノ成績及出席ノ多寡トニ依リ之ヲ定ム

第五條 學期評點及學年試驗點ハ各一科目ニ就キ二百ヲ以テ最高點トス其採點科目ハ左表ニ據ル但シ福岡縣立東筑中學校ニ於テハ唱歌ヲ加フ(全上但書道加)

學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	同上	同上	同上	同上	同上	同上

第十三條 病氣又ハ止ムヲ得サル事故ニ依リ學期試驗又ハ學年試驗ヲ受クルコト能ハサル者其病氣ニ依ルモノハ學校醫若クハ豫テ學校ヨリ指定セル病院ノ診斷書ヲ添ヘ其事故ニ係ルモノハ保證人連署ノ上試驗當日又ハ以前ニ追試驗ヲ願出ツルトキハ證據ノ上特ニ之ヲ許可シ若クハ平常ノ成績ニ依リ査定點ヲ附與スルコトアルヘシ前項ノ場合ニハ其成績ヨリ十分ノ二ヲ減ス

第十四條 全學科ヲ修了シ規定ノ試驗ヲ經タル者ニハ左ノ書式ニ準シ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書書式

番号	族籍	姓名	生年月
學校印			

本校ニ於テ中學科ヲ修メ規定ノ試驗ヲ經テ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年 月 日

福岡縣立某中學校長姓 名印

第四章 入學在學退學及懲戒

第十五條 入學志願者中本縣在籍ノ者及全戸寄留ノ者ニハ其他ノ志願者ニ先テ入學ヲ許ス

第十六條 他ノ中學校ヨリ轉學ヲ志望スルモノアルトキハ學年ノ始メヨリ三十日以内又ハ第二學期ノ始メヨリ十日以内ニ限リ許可スルコトアルヘシ

第十七條 生徒半途ニシテ退學シタルトキハ其學年内ニ再入學ヲ許サス
(明治三十七年一月福岡縣令第二號ヲ以テ以上二條追加全四月施行)

第十八條 一學校ニ於テ放校又ハ退學ノ處分ヲ受ケタル者ハ一箇年以上ヲ經タル後ニアラサレハ入學ヲ許サス

第十九條 入學志願者ハ左ノ書式ニ準シ入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ學校長ニ差出ス

入學願書々式(用紙半紙野紙)

入學願書

私儀御校第何學年へ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書相添此段相願候也

現住所 (戸主ナラサレハ某何男或ハ弟等)
本籍族職業

年 月 日

何 某 印

何年何月何日生

福岡縣立某中學校長何某殿

前書之通相違無之候也

年 月 日

何郡(市)町村長 何 某 印

履歷書々式(用紙半紙野紙)

履歷書

現住所 (戸主ナラサレハ某何男或ハ弟等)
本籍族職業

生所 何廳府縣何國
何郡市區何町村

何 某 印

何年何月何日生

一何年何月ヨリ何年何月迄何所何學校ニ於テ何科修業其履歷ヒシ等級何々

一何年何月何所何學校ニ於テ何科卒業證書又ハ何級修業證書ヲ受領ス

卒業證書又ハ修業證書ノ寫

何々

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所何誰ニ就キ何學修業

一何年何月何所何誰ヨリ品行證書ヲ受領ス

品行證書ノ寫

何々

一何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事ス

一何年何月何所ニ於テ何廉ニ付何賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ケ

一何々

年 月 日

第二十條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ入學ノ時左ノ書式ニ準シ在學證書ヲ學校長ニ差

出スヘシ

在學證書々式(用紙美濃紙)

貳錢

收入印紙

在學證書

私儀各般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ品行ヲ慎ムヘキハ勿論御規則等堅

福岡縣立中學校規則

夕相守リ撰リニ退學轉學等仕間敷候仍テ證書如斯候也

本籍族

年 月 日

何

某 印

何年何月何日生

福岡縣立某中學校長何某殿

前文何某在學中其監督保護ノ責ニ任スルハ勿論在學中ニ係ル事件ハ全人御校ノ學籍ヲ脱シ候後タリトモ拙者共ニ於テ一切引受可申候仍テ保證如斯候也

本籍族

職務若クハ職業

生徒ニ對スル關係

保證人

何

某 印

何年何月何日生

現住所

本籍族

年 月 日

職務若クハ職業

生徒ニ對スル關係

保證人

何

某 印

何年何月何日生

現住所

前書保證人何某ハ丁年以上ニシテ本郡(市)町村内ニ於テ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ相違無之候也

年 月 日

何郡(市)何町村長

何

某 印

前書保證人何某ハ丁年以上ニシテ本郡(市)町村内ニ於テ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ相違無之候也

年 月 日

何郡(市)何町村長

何

某 印

第二十一條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ本縣下ニ於テ獨立ノ生計ヲ營ミ其一人ハ現ニ學校所在地ヨリ凡ソ一里以内ニ居住スルモノタルヘシ但シ學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ

第二十二條 保證人宿所ヲ轉シ或ハ改印スルトキハ直チニ學校長ニ届出ツヘシ

第二十三條 保證人一時旅行セントスルトキハ豫メ相當ノ代理者ヲ定メ學校長ニ届出ツヘシ但シ學校長ニ於テ其代理者ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ

第二十四條 保證人死亡シ又ハ第二十一條ニ掲クル資格ヲ失フ等ノ場合ニ於テハ直チニ他人ヲ以テ之ニ易ヘ更ニ在學證書ヲ差出スヘシ

福岡縣立中學校學則

四〇九

第二十五條 生徒期日ニ於テ授業料ヲ納付セサル者ハ未納中昇校スルコトヲ得ス

第二十六條 生徒病氣其他止ムヲ得サル事故ニ依リ缺席セントスルトキハ其當日乃至翌日中ニ必ス其事由及日限ヲ詳記シ保證人連署學校長ニ届出ツヘシ但シ病氣歛席六日以上ニ及フトキハ醫證ヲ添フヘシ

第二十七條 生徒病氣其他止ムヲ得サル事故ニ依リ退學セント欲スルトキハ其事由ヲ詳記シ保證人二人ト連署願出ツヘシ但シ病氣ニ依ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命ス

一 授業料滞納三週日ニ渉ル者

二 正當ノ理由ナクシテ引續一箇月以上缺席スル者

三 出席常ナラサルコト甚シキ者

四 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス引續一箇年以上缺席スル者

五 本章ノ條規ニ據リ保證人ヲ更ヘサル者

六 二學年ヲ越ヘ猶同級ニ止マル者又ハ學業不進歩甚クシテ成業ノ見込ナキ者

七 性行不良ニシテ改善ノ見込ナキ者

第二十九條 生徒校則及命令ニ違背シ其他生徒タルノ本分ヲ失スル者ハ學校長其行爲ノ輕重ニ從ヒ之レニ懲戒ヲ加フ

懲戒ヲ分テ譴責、謹慎、停學、及放校トス

第五章 授業料及入學試験料

第三十條 授業料ハ一箇月金壹圓五拾錢トシ入學ノ月ヨリ退學ノ月マテ毎月之ヲ徵收ス但シ縣外ノ入學生ニ對シテハ一箇月金貳圓ヲ徵收ス

(明治三十五年十二月廿五日福岡縣令第七一號ニテ改正全三十六年四月一日施行)

第三十一條 定期休業若クハ學校ノ都合ニ依リ全月休業スルトキハ其月ノ授業料ハ徵收セズ

第三十二條 生徒病氣其他ノ事故ニ依リ全月缺席スルコトアルモ授業料ヲ徵收ス

第三十三條 授業料ハ毎月始業ノ日ヨリ五日以内ニ徵收ス但シ徵收期日後入學シタルトキハ其月ノ授業料ヲ入學ノ日ニ徵收ス

第三十四條 入學志願者ハ入學試験料金壹圓五拾錢ヲ願書ニ添ヘ納付スヘシ但シ試験ヲ行ハサル者ハ此限リニアラス (明治三十五年五月七日福岡縣令第二八號ヲ以テ改正)

第三十五條 入學出願ノ後願書ノ取消ヲ求メ若クハ試験ヲ受ケサルコトアルモ一旦納入シタル入學試験料ハ返附セズ

第六章 寄宿舎

第三十六條 寄宿舎ハ生徒ノ良習慣ヲ養成スルヲ目的トス

第三十七條 生徒ハ總テ寄宿セシムルモノトス但シ學校ノ都合ニ依リ自家又ハ近親

ノ家及適當ト認メタル宿所ヨリ通學セシムルコトアルヘシ
第三十八條 寄宿生傳染病又ハ重病ニ罹リタルトキハ之ヲ保證人ニ通知シ直チニ退
舍セシム

第三十九條 寄宿生病氣其他止ムヲ得サル事故ニ依リ缺席セントスルトキハ舍監ノ
檢印ヲ受ケ届出ツヘシ

第四十條 生徒寄宿舎ニアリテハ舍則ヲ遵守スヘキハ勿論總テ舍監ノ指揮ニ從フヘ
シ

第七章 特待生

第四十一條 生徒品行端正ニシテ學力優等課業勵精其他特ニ善行アル者ハ學校長之
ヲ特待生ニ選ビ又ハ賞辭ヲ與フ

第四十二條 特待生ハ一學年間授業料ヲ免除ス

第四十三條 學校長ニ於テ特待生ノ資格ヲ失フ者ト認ムルトキハ直チニ特待生タル
コトヲ停止ス

第八章 生徒心得

第四十四條 生徒ハ常ニ聖勅ノ大旨ヲ奉體シ左ノ條項ヲ銘心服膺スヘシ

一 校則ヲ遵守シ師長ニ恭順ナルヘキ事

二 衣食起居ヲ慎ミ身体ノ健全ヲ保ツヘキ事

三 修學ノ序ヲ履ミ切問近思ヲ務ムヘキ事

四 信義ヲ重シ志操ヲ固クシ言行一致ヲ期スヘキ事

五 智徳ヲ淬礪シ立身報國ノ基ヲ建ツヘキ事

第九章 補習科 (明治三十六年二月十八日福岡縣令第
九號ヲ以テ本章追加以下順次續下)

第四十五條 中學校ニ補習科ヲ置キ其修業期間ヲ六ヶ月トス

第四十六條 補習科ノ學科目及每週教授時數ハ左表ニ依ル但學校ノ都合ニ依リ知事
少認可ヲ經テ學科目及每週教授時數ヲ増減スルコトヲ得

學 科 目	每週教授時數
國語及漢文	三
英 語	六
數 學	六
物理及化學	三
合 計	一八

第四十七條 補習科ヲ修了シタル者ニハ左式ノ修了證書ヲ授與ス

番 號	福岡縣立某中學校卒業生
族 籍	

福岡縣立中學校學則

姓

生年月日

右ハ本校ニ於テ補習科ヲ修了セリ

仍テ之ヲ證ス

年 月 日

福岡縣立某中學校長

姓

名 印

第四十八條 本章ニ定メタル條項ノ外ハ總テ本則ノ規定ヲ準用ス

第十章 補 則

第四十九條 此規則施行ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十一章 附 則

第五十八條 此規則ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第五十一條 此規則施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其程度ハ便宜斟酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 明治三十四年三月本縣令第十七號ハ之ヲ廢止ス

(明治三十七年一月福岡縣令第二號ヲ以テ第十六、十七兩條ヲ追加シ以下稱下ク)

◎教 科

○中學校教授要目 明治三十五年二月六日 文部省訓令第三號

北海道廳 府縣

今般本省ニ於テ左ノ通中學校教授要目ヲ編纂セリ地方長官ハ宜ク各中學校長ヲシテ之ヲ斟酌シ適當ナル教授細目ヲ定メ以テ各學科教授ノ效果ヲ完カラシメンコトヲ力

中學校教授要目

一 本要目實施上ノ注意

二 修身

三 國語及漢文

四 外國語

五 歷史

六 地理

七 數學

八 博物

九 物理及化學

十 法制及經濟

中學校教授要目

圖書

唱歌

体操

中學校教授要目

本要目實施上ノ注意

- 一 中學校ニ於ケル教授ハ常ニ訓育ト相待テ高等普通教育ノ目的ヲ達セシメトナシテ期スヘシ
- 二 教授ハ各學科目固有ノ目的ヲ失ハサランコトニ留意シ相互ノ連絡ヲ保テテ全体ノ統一ヲ圖ルヘシ
- 三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ニ涉リ又ハ形式ニ流ル、コトナク生徒ヲシテ正確ニ理會シ應用自在ナラシメンコトヲ期スヘシ
- 四 學科目ノ性質上止ムヲ得サルモノ、外ハ教科書ヲ用ヒテ之ヲ教授スヘシ
教科書ハ常ニ之ヲ活用セシメコトニ留意シ之ヲ爲ニ結束セラレサランコトヲ力ムヘシ
教科書ハ其ノ選擇ヲ慎ミ濫ニ之ヲ變更スルコトアルヘカラス
- 五 教授ハ學年ノ始ニ精クシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陥ラサランコトヲ要ス
各學校ニ於ケル教授實施ノ日數ハ之ヲ一定シ難シト雖モ第一學期及第二學期ハ各凡七十五日第三學期ハ凡五十五日ニ下ラサランコトヲ要ス

七 教授用備品ハ教授上差支ナキ限必シモ正式精緻ノモノタルコトヲ要セス成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テシコトヲ力ムヘシ

諸學科目ニ通ズル備品ハ教授上差支ナキ限成ルヘク之ヲ兼用スヘシ必シモ各別ニ之ヲ備スルコトヲ要セス

八 學校所在地ニ圖書館、博物館、工場、試驗場ノ設アルトキハ之ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス

修身

第一學年及第二學年

每週一時

道德ノ要領

嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ近易ノ事項ヲ授クヘシ其ノ目ハ概テ次
如シト雖モ必シモ之ニ拘ラス又整然秩序ヲ設クルコトヲ要セス生徒學力ノ進度
ト時機トニ適應シ實踐ニ適宜ヲラシムヘシ
生徒心得

當該學校ノ規則、師長ニ對スル心得、生徒ノ本分等

衛生ニ關スル心得

運動ヲ勉メヘキコト、飲食ヲ節制スヘキコト、身体衣類住居ヲ清潔ニスヘキコト等

修學ニ關スル心得

志操ヲ堅固ニスヘキコト、學業ニ精勵ナルベキコト、困難ヲ忍ブヘキコト等

朋友ニ對スル心得
信義ヲ重ニスヘキコト、愛情ヲ以テ交ハルヘキコト、互ニ助力スヘキコト等

起居動作ニ關スル心得
時ヲ貴フヘキコト、秩序ヲ整フヘキコト、禮容ヲ重ニスヘキコト等

家庭ニ於ケル心得
父母ニ孝ナルヘキコト、兄弟ニ友ナルヘキコト等

國家ニ對スル心得
國體ヲ尊崇スヘキコト、國法ニ遵フヘキコト、義勇公ニ奉スヘキコト等

社會ニ對スル心得
長者ヲ尊フヘキコト、公德ヲ尙フヘキコト、自己ノ地位職業ニ對スル責任ヲ重
ニスヘキコト

修徳ニ關スル心得
主要ナル諸徳ノ説明及其ノ實踐ノ方法、誘惑ノ危險ナルコト、操持ヲ完シスヘ
キコト等

第三學年及第四學年

每週一時

道徳ノ要領

自己ニ對スル責務

身體

健康 生命

精神

知 情 意

自立

職業 財產

人格

家族ニ對スル責務

父母 兄弟、姉妹 子女 夫婦 親族 祖先、家門 婢僕

社會ニ對スル責務

個人

他人ノ人格 他人ノ身體、財產、名譽 祕密、約束等 恩誼 朋反 長幼、

貴賤、主從等 女性

公衆

協同 社會ノ秩序 社會ノ進歩

中學校教授要目

所屬團體

國家對スル責務

國體

皇室

忠君 皇祖、皇宗 皇運

國家

國憲、國法 愛國 兵役、租稅 教育 公務 公權 國際

人類ニ對スル責務

萬有ニ對スル責務

動物 天然物 眞、善、美

前記ノ目ハ主トシテ責務ノ對象タルベキモノナレバ之ニ就キテ主要ナル責務ヲ授クベシ例ヘバ自己ノ精神ノ目ニ於テハ智能ヲ練磨シ情慾ヲ制シ情操ヲ養ヒ意志ヲ鍛鍊シ常識ヲ養フベキコト等又他人ノ人格ノ目ニ於テハ其ノ權利、思想、信仰、感情、希望等ヲ推重スベキコト等成ルベク遺漏ナク舉ゲンコトヲ要ス責務ト關聯シテ德ヲ説明シ諸責務及諸德相互ノ關係ヲ知ラシメ且嘉言善行等ヲ引用シテ之ヲ心裏ニ浸潤セシムベシ

第五學年

每週一時

倫理學ノ一斑

行爲ノ要素、良心、理想、責務、德、修徳ノ工夫、倫理法ト自然法トノ關係等ノ簡單ナル解説

道徳ノ要領

前各學年中段ナル事項ノ總攬

教授上ノ注意

- 一 格言例語ヲ引用スルニハ必シモ其ノ多キヲ求メス務メテ現代ノ時勢ト生徒ノ境遇トニ適切ナルモノヲ選ブベシ詭激ナル例語ハ成ルベク之ヲ避クヘシ若シ偶々之ニ及ブコトアルトキハ其ノ應用ヲ誤ラシメサランコトニ留意スヘシ
- 二 責務ヲ授クルニハ生徒將來ノ地位職業等ノ差別アルコトニ注意シ其ノ各方面ニ亘リテ之ガ應用ヲ知ラシムヘシ
- 三 第二學年又ハ第三學年ニ於テハ生徒ノ身體及精神漸ク變動ヲ起シ内外ノ誘惑ニ陥リ易キヲ例トスルヲ以テ特ニ此時期ニ注意シ堅固ノ志操ヲ養ヒ良習慣ヲ作ラシメンコトヲ力ムヘシ
- 四 倫理學ノ一斑ハ徒ニ高尚ニ馳セ又ハ諸學派ノ異說ニ涉ルコトナク普通ノ概念ノ解説ニ止メ生徒ヲシテ其ノ思想ヲ確實ナラシメンコトヲ要ス
- 五 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタルトキ又ハ式日、紀念日等ニ際シテハ全校又ハ

中學校教授要目

四二二

一部ノ生徒ヲ集メ臨時敎訓スルヲ可トス
國語及漢文

第一學年

每週七時

講讀

每週五時

讀方 國語ハ發音ニ注意シ特ニ方言的發音ヲ矯正セシコトヲ力ムヘシ漢文ハ成ル

ヘシ國語ノ法則ニ從ヒ文字ノ用法顛倒等ニ注意セシムヘシ

解釋 成ルヘシ口語ト密接シテ語義、文議ヲ正確ニ解釋セシムヘシ

暗誦 讀本中ノ佳句、格言、諷誦スヘキ詩歌等ヲ暗誦セシムヘシ

講讀ノ材料

國語ハ小學校ニ於ケル國語等ニ連絡ヲ圖リ今文ヲ用ヒテ修身、歷史、地理、理科、實業等ニ關スル事項ヲ記シタル現代作家ノ不正ナル記事文、敘事文等ヲ採ルヘシ又普通今文ノ外正確ナル口語ノ標準ヲ示スヘキ演說、談話ノ筆記並ニ現代名家ノ書牘文及新體詩ヲモ含マシメテ可ナリ其ノ程度ハ文部省編纂高等小學校用讀本ノ第六卷及第七卷ニ準スヘシ

漢文ハ初ヨリ文意完結セシ全篇ヲ採ルコトヲ要セス第一學期ニ於テハ單語單句ヲ舉ケテ其ノ組織ト國語ノ組織トノ異同ヲ示シ第二學期以後ニ於テハ我國近世作家

中學校敎授要目

四三二

ノ用語平易ニ構造簡易ナル短章ニ句讀、返リ點、送り假名ヲ施シタルモノヲ授ケ時々既ニ課シ了リタル國語ノ一二節ヲ漢譯シタルモノヲモ交ヘテ之ヲ對照セシムヘシ

國語漢文ヲ課スル比ハ國語入、漢文ニタルヘシ

文法及作文

每週一時

文法

假名遣附字音假名遣ノ大要 國語品詞ノ分別 漢文品詞ノ分別

國語文法ハ言文ノ對照ヲ主トシ常ニ口語ト今文トヲ關聯セシメテ今文ニ必須ナル法則ヲ示スヘシ漢文ノ語法ハ漢文ヲ理會シ易カラシムル程度ニ止ムヘシ

作文

書取 假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫ヲ正確ナラシメ且速記ノ慣習ヲ養フヘシ

復文 口語ヲ今文ニ、若ハ今文ヲ口語ニ譯セシムヘシ

作文 書翰文、今文體ノ記事文、但記事文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ

作文ノ即題ハ凡隔週一回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

習字

每週一時

楷書 行書

清書ハ凡隔週一回之ヲ課スヘシ

中學校敎授要目

四三三

第二學年

四二四

講讀

讀方 前學年ニ同シ

每週七時

解釋 前學年ニ同シ

每週五時

暗誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今文 前學年ニ準シ又現代作家ノ論說文ヲ加フ

近世文 今文ニ最モ近キモノ、例ヘハ橋南谿ノ東西遊記、伴蒿蹊ノ近世畸人傳

、貝原益軒ノ訓誡書類、成島司直ノ徳川實記附録ノ類

漢文

前學年ニ準シ又我國近世作家ノ簡易ナル敘事文或ハ傳記、紀行等ノ文意完結セ
ル短篇ヲ加フ、例ヘハ賴山陽ノ日本外史、大槻磐溪ノ近古史談、菴谷岩陰、岩
陰存稿、安井息軒ノ讀書餘適ノ類

國語漢文ヲ課スル比ハ國語七、漢文三ニシテ國語ハ今文二、近世文一ノ比ヲ以テ
之ヲ課スヘシ

文法及作文

每週一時

文法

品詞各論

作文

書取 前學年ニ同シ

復文 前學年ニ同シ

作文 書取文、記事文、敘事文、但敘事文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ

作文ノ即題ハ凡隔週一回宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

習字

每週一時

前學年ニ同シ

第三學年

每週七時

講讀

每週五時

讀方 發音ノ外抑揚緩急ニ注意スヘシ

解釋 語義、文義ノ外文法上ノ句法ニ注意スヘシ

暗誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今文 現代ノ思想事實ヲ敘述論議スル今文

中學校教授要目

四二五

近世文 室鳩巢ノ暇臺雜話、安藤年山、年山紀聞、新井白石ノ讀史餘論、本居宣長ノ玉勝間ノ類

近古文 鎌倉室町時代ノ文、例へハ保元平治物語、神皇正統記、十訓抄、樵談 浴要ノ類

韻文 主トシテ今樣歌

漢文 前學年ニ準シ又我國作家ノ論說文ヲ加フ、例へハ賴山陽ノ日本外史ノ敘論ノ類 國語漢文ヲ課スル比ハ國語七、漢文三ニシテ國語ハ今文三、近世文二、近古文一ノ比、漢文ハ記事文敘事文一、論說文一ノ比ヲ以テ之ヲ課スヘシ

文法及作文

每週一時

文法

文章論ノ大要 係結ノ法則 文章ノ解剖

作文

書取 文章ヲ朗讀シテ其ノ大意ヲ記述セシムヘシ

譯文 漢文ヲ譯セシメ又時トシテ外國文ヲ譯セシムヘシ且簡單ナル國文ヲ漢文ニ譯セシメテ用字ノ法ヲ知ラシムルモ可ナリ

作文 記事文、敘事文、傳記文、但傳記文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ

作文ノ即題ハ凡隔週一回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

文法及作文ヲ授クル際便宜辭典、字書ニ就キ假名引、畫引、偏傍冠等ノ名稱ヲ授ケテ國語又ハ漢字ノ檢索方ヲ知ラシムヘシ

習字

每週一時

行書 草書

第四學年

每週六時

每週五時

講讀

讀方 前學年ニ同シ

解釋 國語ノ古文ハ口語ヲ以テ之ヲ解釋スルノミナラス又之ヲ今文ニ對照シ漢文ハ之ヲ國文ニ對照シテ意味セシメ修辭上ノ注意ヲ加フヘシ

暗誦 前學年ニ同シ又時トシテ名家ノ文章ヲ暗誦セシムヘシ

講讀ノ材料

國語

今文 前學年ニ準シ又詔勅、上書等ヲ加フ

近世文 新井白石ノ折焚柴ノ記、太宰春臺ノ經濟錄ノ類、但稗史ノ類ト雖モ教育上ノ目的ニ戻ラサル限ハ之ヲ採ルヲ可トス

近古文 源平盛衰記、太平記ノ類

中學校教授要目

歌 古今和歌集ノ類

漢文

句讀及返リ點ヲ施シ送り假名ヲ省キタルモノ

散文 前學年ニ準シ又支那作家ノ簡易ナル傳記、紀行等ノ文ヲ加フ例ヘハ清初

作家、唐宋八家ノ文、佐藤一齊、松崎慊堂ノ文ノ類

詩 唐詩選ノ類

國語漢文ヲ課スル比ハ國語六、漢文四ニシテ國語ハ今文二、近世文一、近古文一

ノ比、漢文ハ我國作家ノ文一、支那作家ノ文一ノ比ヲ以テ之ヲ課シ詩歌ハ適宜之

ヲ加ヘ授クヘシ

每週一時

文法及作文

前各學年中授クタル事項ノ復習 近古以上ノ文ニ特有ナル法則

作文

書取 前學年ニ同シ

譯文 前學年ニ同シ

作文 記事文、敘事文、傳記文、論說文、但論說文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ

作文ハ即題宿題トモ各凡毎月一回之ヲ課スヘシ

第五學年

講讀

第一學期及第二學期 第三學期

每週六時
每週五時
每週二時

讀方 前學年ニ同シ

解釋 前學年ニ同シ

暗誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今文 前學年ニ準ス

近世文 前學年ニ準ス

近古文 前學年ニ準ス

歌 前學年ニ準ス

漢文

散文 前學年ニ準シ又史記、蒙求、論語ノ類ヲ加フ

詩 前學年ニ準ス

國語及漢文ヲ課スル比ハ國語六、漢文四ニシテ國語ハ今文一、近世文一、近古文一ノ比、漢文ハ我國作家ノ文一、支那作家ノ文三ノ比ヲ以テ之ヲ課シ詩歌ハ適宜

中學校教授要目

之ヲ加ヘ授クヘシ

國文學史 第三學期

每週三時

主要ナル文學時代 顯著ナル文學者 顯著ナル著作物 各種ノ文體、歌體國文學史ヲ授クルニハ我國ノ漢學ヲモ度外ニ置クヘカラス又上古文學ノ一斑ヲモ窺ハシムヘシ

文法及作文

每週一時

文法

前各學年中授ケタル事項ノ復習 單語ノ構造 國語沿革ノ大要

作文

書取 前學年ニ同シ

譯文 前學年ニ同シ

作文 前學年ニ同シ

各學年ニ於ケル講讀ノ教授ハ國語、漢文ノ時間ヲ分タス之ニ用フル讀本ハ成ルヘク國語ト漢文トヲ適當ニ交ヘテ組織シタルモノヲ採ルヘシ
讀本ニ於ケル今文ノ材料ハ創作ノ必要少カラス又漢文、外國語ヲ今文ニ翻譯シタルモノニシテ其ノ模範トナスヘキモノハ之ヲ採ルヘシ
口演ハ別ニ之ヲ舉グスト雖モ常ニ生徒ヲシテ言語態度ニ留意セシメ又時々生徒ノ學

習或ハ經驗セル事項ニ就キテ談話解説等ヲナサシメ正シキ國語ノ使用ニ慣レシムヘシ

教授上ノ注意

- 一 讀本中ノ事項ハ單ニ其ノ意義ヲ解釋スルニ止メス之ニ關スル説明ヲ加ヘ成ルヘク地圖、繪畫、標本等ニ依リ生徒ノ理會ヲ明確ナラシムヘシ
- 二 故事古語等ハ之カ解釋出處ニ關シテ徒ニ生徒ヲ苦マシムルコトナク初ヨリ其ノ説明ヲ與フヘシ
- 三 國語ノ文法ニ於テ最モ誤リ易キハ活用文ノ用法ナルヲ以テ教授ノ際特ニ之ニ注意シテ常ニ其ノ練習ヲ怠ラサルヘシ
- 四 作文ハ其ノ文體、教授法等ニ關シテ一定ノ標準ヲ定メ難シト雖モ迂遠ニ流レズ難澁ニ失セズ簡易ニシテ實用ニ適切ナラシムルコトヲ期スヘシ
- 五 漢字ノ字畫ノ似タル瓜、瓜、傳、傳ノ類ハ誤リ易キモノナレハ書取、作文ヲ授クル際特ニ之ニ注意セシムヘシ

外國語

此要目ハ英語ニ就キテ之ヲ定ム獨語、佛語ニ就キテハ之ニ準スヘシ
各學年ノ教授事項ハ之ヲ分割スルコトナク同一教授時間ニ於テ相關聯シテ之ヲ授クヘシ但特ニ示シタル場合ニ於テハ教授時間ヲ分ツコトヲ得ト雖モ尙其ノ相互ノ連絡

ニ留意セシコトヲ要ス

四三二

第一學年

每週六時

發音、綴字

初ハ發音ヲ正シ單語ニ就キテ綴字ヲ授ケ其ノ概要ニ通シタル後ハ讀方、會話ト附帶シテ之ヲ練習セシムヘシ

讀方、譯解、會話、書取
平易ナル文章

文部省會話讀本、なしよなる讀本、ろんどまんす讀本、すういんどん讀本等ノ第一卷又ハ第二卷ノ初ノ程度ニ依ルヘシ

讀本ヲ授ケル際隨時常用ノ名詞及代名詞ノ數、性及人稱、形容詞及副詞ノ比較、常用ノ動詞ノ直說法變化、主要ナル不規則動詞、頭文字ノ用法等ヲ知ラシムヘシ

習字

本學年ニ於テハ專ラ習字ヲ授ケル爲每週一時ヲ分ツコトヲ得

第二學年

每週六時

讀方、譯解、會話、作文、書取
平易ナル文章

前ニ學ケタル讀本ノ第二卷又ハ第三卷ノ初ノ程度ニ依ルヘシ又日常ノ應對ニ必要ナル用語ヲ授ケテ其ノ應用ヲ練習セシムヘシ
讀本ヲ授ケル際隨時文法ニ關シテ前學年ノ事項ノ外文章ノ構造、名詞及代名詞ノ格、句讀點ノ用法等ヲ知ラシムヘシ

第三學年

每週七時

讀方、譯解、會話、作文、書取
平易ナル文章

前ニ學ケタル讀本ノ第三卷又ハ第四卷ノ初ノ程度ニ依ルヘシ
文法

名詞ノ變化 代名詞ノ種類及其ノ變化 動詞ノ種類及變化 形容詞及副詞ノ比較
冠詞ノ種類 文章ノ解剖

本學年ニ於テハ專ラ文法ヲ授ケル爲每週一時ヲ分ツコトヲ得
第四學年 每週七時

讀方、譯解、書取
普通ノ文章

前ニ學ケタル讀本ノ第四卷ノ程度ニ依ルヘシ
會話、作文

中學校教授要目

四三三

平易ナル對話 平易ナル翻譯 簡單ナル記事文、書翰

文法

代名詞ノ用法 時及法ニ關スル動詞ノ用法 前置詞ノ用法 冠詞ノ用法 文章論
本學年ニ於テハ專ラ文法ヲ授クル爲毎週一時ヲ、專ラ會話、作文ヲ授クル爲毎週二
時以内ヲ分ツコトヲ得

第五學年

每週七時

讀方、譯解、書取

普通ノ文章

前ニ與ケタル讀本ノ第五卷又ハるんぐまんす讀本ノ第六卷ノ程度ニ依ルヘシ

會話、作文

前學年ニ關シテ稍其ノ程度ヲ進ムヘシ

前記ノ事項ノ教授ニ附帶シテ文法ヲ復習シ又接頭語、接尾語、同意語等ノ説明ヲ與
フヘシ

本學年ニ於テハ專ラ會話、作文ヲ授クル爲毎週二時以内ヲ分ツコトヲ得

教授上ノ注意

- 一 英語ヲ授クルニハ習熟ヲ主トスヘシ生徒ノ學力ヲ顧ミスシテ徒ニ課程ヲ進ムル
コトアルヘカラス

二 第二學年以後ニ於テハ發音、綴字、習字ノ目ヲ舉ケスト雖モ讀方、會話、作文
及書取ニ附帶シテ便宜之ヲ練習セシムヘシ

三 發音ハ特ニ英語教授ノ初期ニ於テ嚴ニ之ヲ正シ又國語ニ存セサル發音ニ留意シ
テ之ニ習熟セシムヘシ

四 英語ノ意義ヲ了解セシムルニハ之ヲ譯解シ又ハ實物、繪畫等ニ依リ之ヲ直指ス
ヘシ稍々進ミタル生徒ニ對シテハ英語ヲ用ヒテ説明スルコトアルヘシ

五 譯解ハ正シキ國語ヲ以テ成ルヘク精密ニ原文ノ意義ニ適應セシムヘシ
譯解ヲ授クル際東西ノ人情、風俗、制度等ノ異同ヲ知ラシムヘシ

六 讀方ハ既ニ意義ヲ了解セル文章ニ就キテ反復練習セシメ又時々暗誦ヲ課シ發音
、抑揚、緩急及止聲ニ留意シ生徒ヲシテ誦讀ニ依リテ文章ノ眞意自ラ見ハル、
操之ニ習熟セシムヘシ

七 書取ハ讀本ノ文章又ハ生徒ノ容易ニ了解シ得ヘキ文章ニ就キテ之ヲ授ケ生徒ノ
耳ヲ慣ラシ且綴字、運筆ニ習熟セシムヘシ

八 會話ハ讀本中ノ文章又ハ事項ニ因ミテ之ヲ授ケ進ミテハ日常ノ事項ニ就キテ對
話ヲナサシメ生徒ヲシテ文字ヲ離レテ英語ヲ了解シ又自己ノ思想ヲ表ハスコト
ヲ習ハシムヘシ

九 文法ヲ授クルニハ生徒ヲシテ煩雜ナル規則ノ記憶ニ陷ラシムルコトナク應用自

在ナラシメシコトナ期スヘシ

十 適當ノ機會ニ於テ辭書ノ文法ヲ授ケ漸次對譯ニアラサル辭書ノ使用ニ慣レシム

歴史

第一 日本歴史

第一學年

每週一時

太古

神代、皇基ノ遠遠

上古

神武天皇 崇神天皇、景行天皇、日本武尊、熊襲及蝦夷、成務天皇 神功皇后、
韓土内附 仁德天皇、雄略天皇 韓土ノ變遷、歸化人及其ノ子孫、韓土傳來ノ工
藝文物 佛教ノ傳來、蘇我物部兩氏ノ爭亂 聖德太子、佛教ノ興隆、文物制度、
遣唐使 蘇我氏ノ專横及滅亡

中古

大化ノ新政 越蝦夷征伐、隼人及西南諸島、百濟高麗ノ滅亡、天智天皇、藤原鎌
足 壬申ノ亂 律令ノ撰定 奈良奠都、國史ノ撰修 聖武天皇、寺院ノ造營、美
術、工藝、風俗 和氣濟磨 平安奠都、蝦夷ノ鎮定、渤海ノ入貢 嵯峨天皇、入

唐ノ高僧及新宗派、漢文學及學校ノ設立 藤原氏及他氏ノ盛衰、皇族賜姓、攝政
關白 菅原道真、延喜時代、地方ノ狀況 承平天慶ノ亂 藤原氏家門ノ爭、藤原
道長國文ノ隆盛、工藝、風俗 刀伊ノ亂、地方ノ亂、前九年ノ役

第二學年

每週二時

中古ノ續キ

後三條天皇 院政、武人ノ登用、僧徒ノ跋扈 後三年ノ役、源氏 保元ノ亂、平
治ノ亂 平清盛、平氏ノ繁榮 諸源ノ舉兵、平氏ノ滅亡

近古

鎌倉幕府、守護地頭 鎌倉三代 承久ノ亂 北條氏ノ執權、貞永式目 鎌倉武士
、京部公卿、風俗、文學、新宗派 元寇 兩皇統ノ交立、五攝家 元弘ノ亂 勤
王諸將、北條氏ノ滅亡 建武中興 足利尊氏ノ反 南北朝 室町幕府、鎌倉管領
足利義滿ノ驕奢、應永ノ亂 永享嘉吉ノ亂 應仁ノ亂 關東ノ分裂、北條早雲
東山時代、文學、美術、工藝、風俗 足利季世京都ノ衰替 群雄割據 皇室、
織田信長ノ豐臣秀吉 朝鮮征伐

近世

徳川家康、關原ノ役 江戸幕府、諸侯 天主教、島原ノ亂、通商貿易 後水尾
天皇 文學ノ復興、徳川光圀、著名ナル學者 元祿時代、奢侈、風俗 新井君美

中學校教授要目

四三七

德川吉宗ノ治、實學及殖産ノ獎勵、田沼意次ノ執柄、松平定信、諸藩ノ治附著
 名ノ藩侯、國學、尊王學、蘭學、海防策、露人ノ寇、英船其ノ他ノ來航、米國使
 節ノ來朝、開港攘夷ノ論、安政ノ大獄、井伊直弼ノ武斷、幕府ノ衰頹、討幕論、
 元治ノ變、長州征伐、大政奉還、伏見ノ戰、戊辰ノ役、
 現代

明治新政、五條ノ誓文、開港、莫都

第五學年

每週一時

建國ノ體制

大化以前ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、支那及韓土トノ關係氏族部民ノ制、祭祀教
 法

大化以後延曆以前ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、支那及韓土トノ關係

制度ノ概要(官制、田租賦役、兵制、刑制等)文化

平安時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、文物制度ノ變遷

院政及平氏時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、莊園ノ起源、寺院ノ勢力、武門ノ興
 起

鎌倉時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、幕府ノ制度、朝廷ト幕府トノ關係

南北朝及足利時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、室町幕府ノ制度、明トノ交通ニ係

寇「歐洲人ノ來航、通商貿易、天主教ノ傳播、外征及冒險ノ氣象

天文慶長年間ニ於ケル國內變動ノ概要

江戸時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括

江戸幕府ノ諸制度

邊境ノ事情、洋學

維新ノ原因及其ノ事蹟ノ概括

明治新政、新設官制、版籍奉還、廢藩置縣

外交、大使派遣、歐米文物制度ノ採用

朝鮮トノ關係、征韓論、佐賀ノ亂

臺灣征討、北海道、樺太及千島

熊本及萩ノ暴動、鹿兒島ノ亂

琉球ノ處分、朝鮮ノ修好及事變、天津條約

民選議院論、元老院、地方官會議、府縣會、國會開設ノ請願、政黨、新聞紙、國會

開設ノ準備

憲法、皇室典範、帝國議會

諸制度ノ發達、學術ノ進步、交通機關ノ擴張、殖産工業貿易ノ振興、條約改正

明治二十七八年ノ戰役

中學校教授要目

世界ニ於ケル日本ノ地位

第二 東洋歴史

第三學年

毎週二時

上古

上代ノ支那 唐虞三代 春秋ノ世 周ノ制度 文物 戰國 孔子 周末ノ學術
上代ノ印度、佛教ノ興起

中古

秦ノ一統、漢楚ノ争、漢高祖、文帝景帝ノ治 武帝ノ業、四夷ノ服屬、王氏ノ篡
意 後漢ノ政、匈奴、西域ノ叛服 三國 晋、 五胡、十六國 北南朝 隋 唐
太宗、武韋ノ禍 開元ノ治、安史ノ亂 藩鎮宦官ノ禍、唐末ノ大亂 朝鮮半島ニ
於ケル諸國ノ盛衰、渤海 漢唐ノ儒學文藝 佛教道教及其ノ他ノ宗教、南海ノ貿
易五代 宋太祖、仁宗ノ治 王安石ノ新法 遼金ノ廢興、高麗ノ盛衰、宋金ノ交
涉 宋代ノ儒學文藝及宗教

近古

蒙古ノ勃興、元太祖ノ西征 太宗憲宗ノ南征附拔都及旭烈兀ノ西征 世祖ノ一統
及東侵 元代ノ治亂附諸汗國ノ盛衰 明ノ太祖、靖難ノ役、成祖ノ遠略 帖木兒
明ノ中世(遠境ノ寇、大禮ノ議)交趾ノ叛服、沿海ノ寇盜 明ノ末世、(高麗朝鮮

ノ役、東林ノ獄、流賊) 元明ノ儒學文藝 莫臥兒帝國ノ興亡 ほとがる、い
すばにわノ東略、天主教ノ東流

近世

清ノ開國、世祖ノ一統 清聖祖高宗ノ業 清ノ學術 東洋ニ於ケル蘭英諸國ノ競
争 英領印度 清英ノ交渉 長髮賊ノ亂、英佛ノ北清侵伐 露ノ東略、清露ノ關
係 安南暹羅、清佛ノ交渉 日清韓ノ關係、日清ノ戰役 東洋ニ於ケル英露及佛
獨米 世界ニ於ケル東亞諸國ノ現勢

第三 西洋歴史

第四學年

毎週二時

上古

はびるにわ、あつしりわ へるしわ、だり
うす、くせるくせずノ業 ざりしわ、ざりしわノ文物 えてん、すばるた、て
へ、へるしわノ交渉 黒海沿岸ノ地方、まけとにわ、あれくさんとるノ業 ふお
わにきわ殖民地、いたりの統一ニ至ルる一ま ばにに戰役 あれくさんとる後ノ
東方諸國(ざりしわ、まびににわ、はびるにわ、はるちわ、はくとりわ)
る一ま共和制ノ末路 る一まノ東征 かねざるノ業 る一ま帝政ノ初 る一ま
はるちわ、へるしわ る一まノ制度及國情、基督教

中古

けるまにノ遷徒 東ローマトべるしめ、すらふ諸部落 さらせん 中古ニ於ケル
東歐ト西歐、かゝる大帝ノ業 のるまん 聖ローマ帝國、法皇ノ權威 西歐の制
度及國情、十字軍ト東方諸國 いざりすとふらんす 東歐ノ國情、蒙古ノ侵入古
學復興、活版ノ發明、兵制ノ變遷、地理上ノ發見附まるこぼるノ日本 西歐諸
國ノ中央集權、議會ノ起、地方ノ連合 宗教ノ頹廢及救濟ノ企圖 おつとまん
るこノ侵入 宗教改革 いすばにわとふらんすしゆまるかるでん同盟

近古

はるとがる、いすばにわノ殖民策 宗教改革ノ反動 おらんたノ獨立 いざりす
ノちゆーとる朝 ふらんす宗教ノ争 三十年戰役 ふらんす國家主義ノ確立及外
國侵略、いすばにわ繼承ノ役 いざりすノ革命 南洋及東洋ニ於ケルはるとがる
いすばにわ、おらんた、いざりす 近古ニ於ケル北歐及東歐諸國ノ盛衰 北歐ノ
戰役 ばーらんとト近隣諸國、ぶるしわノ勃興、おーすととりわ繼承ノ役 七年戰
役、いざりす、ふらんすノ殖民策 ろしわノ外交及拓殖 北米合衆國ノ獨立 十
八世紀ニ於ケル歐洲列國ノ情勢及文物

第五學年

每週一時

近世

ふらんす革命 ばーらんとノ滅亡 列國局面ノ變化 なほれおん一世ノ業 いざ
りす殖民地ノ擴張 よーろつば獨立ノ戰役 ちいーん列國會議 歐洲亂後ノ國情
東方問題 二月革命及其ノ影響 西歐ト東歐(なほれおん三世、くりむ戰爭) あ
じわニ於ケルるしわ、いざりす、ふらんす いたりわ統一、といつ統一ノ企圖
北米合衆國ノ經濟ト南北戰爭 めさしこ、ふらんすノ交渉 しめれすういくほる
すたいえ問題、ぶるしわ、おーすととりわノ戰役 といつ、ふらんすノ確執、とい
つ統一 ろしわトばるかん半島、埃及問題 英、西、蘭、佛、獨、米ト太平洋洲
、北米合衆國是ノ變遷ト太平洋、あふりか南部の拓殖、ばんすらういせむ 十九
世紀ノ文明及思潮(政治上、宗教上、社會上、經濟上ノ進歩) 世界ニ於ケル日本
ノ地位及日本ト諸外國トノ關係

前記各學年ノ事項ハ便宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得

教育上ノ注意

- 一 歴史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明晰ナル概念ヲ得シムルコ
トヲ主トシ正確ヲ期スル爲徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レサランコトヲ要ス
- 二 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒徳性ノ
涵養ニ資センコトヲ力ムヘシ
- 三 有名ナル詩歌、文章、傳記等ニシテ歷史上ノ事蹟ノ説明ニ資スヘキモノハ便宜

中學校教授要目

- 之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ
- 四 特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ稍々詳ニ之ヲ授クルヲ可トス
- 五 外國歴史ハ特ニ我國ト關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 六 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ連絡ヲ知ラシメ又常ニ地圖、實物、圖書、標本等ヲ示シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ
- 七 地名人名等ノ稱呼ハ必シモ此要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス
- 八 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ
 - 御歴代表、對照年表、各國帝王、及諸家ノ系統表等ノ掛圖
 - 日本沿革及現代地圖
 - 東洋諸國沿革及現代地圖
 - 西洋諸國沿革及現代地圖
 - 著名ナル城邑、戰場、其ノ他古蹟ノ寫眞又ハ圖書
 - 著名ナル人物ノ肖像、古人ノ筆蹟、古文書等ノ實物又ハ模寫
 - 風俗工藝ノ變遷、文化ノ程度等ヲ示ス實物模型又ハ圖書

地理

第一學年

每週二時

緒論

大洋 大洲、島嶼 兩極、赤道 三帶 經緯度 地圖ノ描キ方及讀ミ方ニ關スル
 簡單ナル解説

日本地理

總論

位置

位置、境域、廣袤

地勢

海岸 地形 山系 水系

氣候

溫度 海流 雨量 風

天產物

住民

種族 人口 教育 宗教

政治

國體 政體 區畫 兵備

生業

農業 鑛業 林業 水産業 工業 商業

交通

道路 鐵道 航路 郵便 電信 電話

中學校教授要目

地方誌

地方誌ニ於テハ北海道、臺灣及府縣ノ區分ニ依リ地方ノ天然上及人事上國民ノ

生活ニ關スル事項ヲ授ク

外國地理

あじあ

總論

位置 地勢 氣候 天産物 住民 交通

朝鮮

南洋第二學年

毎週一時

外國地理ニ續キ

一あじあノ續キ

支那

あじあ

あじあ

あじあ

あじあ

あじあ

あじあ

大洋洲

總論

前二學年

あじあ

あじあ

あじあ

あじあ

あじあ

毎週一時

外國地理ノ續キ

あじあ

あじあ

あじあ

あじあ

あじあ

あじあ

あじあ

中學校教授要目

すす

ふらんす

おらんた

スル

いすはに

はるとがる

いたり

ぼるかん半島

第四學年

毎週一時

外國地理ノ續キ

わふりか

總論

前ニ準ス

北部わふりか

中部わふりか

南部わふりか

わめりか

總論

前ニ準ス

かなだ

北米合衆國

めさして附中央わめりか、西いんを諸島

南わめりか

西部 東部

結論

世界ニ於ケル貿易及交通 世界ニ於ケル人口、言語、宗教 日本ト列國トノ關係
及其ノ富力、兵力、領土、殖民地ノ比較 世界ニ於ケル日本ノ地位

第五學年

毎週一時

地文

總論

太陽系 地球ノ形、大サ 地球ノ密度 地熱 地球ノ運動、晝夜、四季、日蝕

及月蝕 經緯度 標準時 地圖

陸

中學校教授要目

沿岸線

地勢及構造

山嶽、原野、露谷等 泉、河、湖 岩石及造岩礦物 地層 岩脈

地殼内ノ産物即有用ノ鑛物及岩石

變動

火山、地震 大陸及山脈ノ生成 沿岸線ノ生成 大氣水生物

日本ノ土地發育

大氣

性質及作用 温度 氣壓 風 濕氣 氣候及天氣

海

海水ノ組織、色、鹽分等 海底 海水ノ温度 波、海流、潮汐

生物

分布、植物系

教授上ノ注意

一 地理ヲ授クルニハ生徒既知ノ事實ト關係アル事實ニ及サソコトヲ旨トシ必シモ此要目ノ順序ニ依ルコトヲ要セス

二 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較連合ヲカメ特ニ外國地理ヲ授クルニ當リ

三 ハ我國ノ狀勢ヲ以テ比較ノ基礎トナスヘシ

三 日本地理及外國地理ヲ授クルニハ常ニ地文ニ關スル事項及實業ニ關スル事項ニ

留意シ濫ニ細密繁多ナル事實數量ヲ記憶セシムルコトハ之ヲ避クヘシ

四 外國地理ヲ授クルニハ我國ト關係多キ地方ニ留意シ此要目ノ中特ニ重要ナル部

分ハ更ニ之ヲ細分シテ授クルコトヲ得

五 歷史上著名ナル場所ニ就キテハ其事蹟ノ大要ヲ附説スヘシ

六 有名ナル詩歌文章紀行等ニシテ地理教授ニ資スルニ足ルモノハ便宜之ヲ引用シ

テ興味ヲ助クヘシ

七 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖、標本

、寫眞、繪畫、表等ニ依リ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ又生徒ヲシテ略圖ヲ

描カシムルモ可ナリ但徒ニ精密ニ涉リ時間ヲ浪費セサランコトヲ要ス

八 地文ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

九 地名ノ稱呼ハ必シモ此要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

十 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

日本及世界地形圖 世界分圖 日本行政區畫圖 日本及世界交通地圖 人種分

布地圖 日本及世界水陸動物分布圖 日本及世界植物區系圖 日本地質圖 日

本及世界同溫線圖 日本及世界同歷線圖 日本及世界風向圖 日本及世界雨量

圖 日本及世界海流圖 同時潮圖 地震及火山分布圖 日本地震圖 天氣圖ノ一例 其ノ他人文、地文ヲ説明スル地圖
 諸統計ヲ示ス圖又ハ表、風俗、風景、其ノ他地文上ノ現象ヲ示ス圖畫又ハ寫眞
 土地ノ高低、褶曲、斷層等ヲ示ス模型又ハ圖畫 主要ナル岩石 主要ナル造岩礦物 日本ノ主要ナル農産林産、水産物及加工品ノ標本 主要ナル貿易品ノ標本
 風化ヲ示ス標本 主要ナル化石又ハ其ノ模型或ハ圖畫 其ノ他ノ掛圖等
 地球儀 羅針盤 測斜器 ねねろい 晴雨計 水銀晴雨計 寒暖計 日時計
 人文地理ニ關スル事項ハ時々異同ヲ來スヨト多クレハ之カ圖表等ハ常ニ其ノ訂正増補ニ留意シ最近ノ形勢ヲ示スモノヲラシムヘシ

數學

第一算術

每週四時

第一學年

結論

命數法 記數法 小數

整數及小數

加減乘除

諸等數

時間 めーとる法度量衡 尺貫法度量衡 本邦貨幣 外國度量衡及貨幣 諸等通法及命法 諸等數ノ加減乘除

英國度量衡及貨幣其ノ他十進法ニ依ラサル複雜ナル諸等數ハ分數ノ中或ハ分數ノ後ニ於テ便宜之ヲ授クルコトヲ得

整數ノ性質

可約性 素數 約數 最大公約數 最小公倍數

分數

分數ノ主要ナル性質 約分 通分 分數ヲ小數ニ比スルコト 小數ヲ分數ニ化スルコト 分數ノ加減乘除

比及比例

比 比例

第二學年

每週二時

比及比例ノ續キ

連鎖法 比例配分 混合

割合

總說 步合算 利息算其ノ他割合ニ關聯スル日用諸算

乘及根

自乘算及平方根 三乘算及立方根 求積

第二 代數

第二學年

每週二時

四五四

緒論

記號ノ定義 代數式 結合ノ法則 定義ノ擴張 負數

整式

加減乘除

方程式

一元一次方程式

第三學年

每週二時

方程式ノ續キ

多元一次ノ聯立方程式

整式ノ續キ

分配ニ關スル公式 因數 最大公約數 最小公倍數

分數式

分數ノ基本性質 約分 通分 分數ノ加減乘除

方程式ノ續キ

一次式ニ歸セシムルコトヲ得ヘキ一元方程式 一元二次方程式 二次式ニ歸セシムルコトヲ得ヘキ一元方程式 二次方程式ヲ含ミタル聯立方程式

方程式ノ解決ニ關スル釋義

第四學年

每週二時

無理式

指數定義ノ擴張 無理數 無理數ニ近似スル有理數值

比及比例

不名數ノ場合 量ノ場合(通約スヘキ量、通約スヘカラサル量) 不盡數

級數

等差級數 等比級數

順例及組合

二項式定理

正整數ナル指數ノ場合

對數

對數ノ基本性質 對數表

第三學年

第三學年

每週二時

中學校教授要目

四五五

緒論

直線

角 平行線 三角形 平行四邊形

圓

圓ノ基本性質 中心ニ於ケル角 弦 弓形ニ於ケル角 切線 二ツノ圓 軌跡

第四學年

每週二時

圓ノ續キ

內接形及外接形

面積

直線形ノ面積ノ等同

比例

等シキ比ノ定義 此定義ヨリ派生スル一般ノ定理

比例ノ應用

比例線 相似形

第五學年

每週二時

比例ノ應用ノ續キ

面積 軌跡

平面

直線及平面 立體角

多面體

角埒 角錐 正多面體

曲面體

球 圓埒 圓錐

第四 三角法

第五學年

每週二時

角ノ計リ方

六十分法

圓函數

銳角ノ圓函數 圓函數相互ノ關係 餘角ノ圓函數 格別ナル角ノ圓函數

真數表

直角三角形ノ解法

圓函數ノ續キ

圓函數ノ一般ノ定義 圓函數相互ノ關係 圓函數ノ符號及大サノ變化 負角ノ圓

函數 補角ノ圓函數

中學校教授要目

角ノ和ニ對スル公式

二ツノ角ノ和及差ノ圓函數 倍角及分角ノ圓函數、圓函數ノ積ニ對スル公式 圓函數ノ和及差ニ對スル公式

三角形ノ邊ト其ノ角ノ圓函數トノ關係

對數表ノ用法

三角形ノ解法

高サ、距離等ノ測法及之ニ關スル實習

教授上ノ注意

一 數學ヲ授クルニハ常ニ正確ナル言語ヲ用ヒテ法則、命題等ノ宣言證明ヲナシ正
確ニ理會セシメシコトヲ力ムヘシ

二 算術ニ於テハ單ニ算法ヲ授クルニ止メス常ニ實算ヲ重シテ正確ニ且迅速ニ計算
シ得ルニ至ラシムヘシ

三 計算ニハ成ルヘク驗シテ行ハシメ之ニ對スル自信ヲ深厚ナラシムヘシ

四 算術ノ例題ハ成ルヘク生業上適切ナルモノヲ選ビ歩合算其ノ他日用諸算ニ關ス
ル例題ヲ課スルニハ特ニ注意シテ其ノ事項ヲ説明スヘシ

五 算術ヲ授クル際法則ノ理由ヲ充分ニ理會セシメ難キ場合ニ於テハ單ニ其ノ一端
ヲ指摘スルニ止メ直ニ法則其ノ物ニ移リ其ノ嚴格ナル理由ノ説明ハ之ヲ代數ニ

讓ルヘシ

六 代數ニ於テ一次方程式ヲ授クルニハ之ヲ一箇處ニ纏ムルコトナク其ノ最モ簡易
ナルモノハ成ルベク早ク之ヲ引用シテ代數ノ趣味ヲ得シムヘシ

七 幾何ヲ授クルニハ論理ノ嚴格ヲ重シズメシ例之ハ比例論ヲ授クル場合ノ如キ濫
ニ簡易ニ就カントスル爲之ヲ省略シ若ハ之ヲ曖昧ニ附シ去ル弊ニ陥ラサランニ
ト少要ス但生徒學力ノ進度ニ依リ一時之ヲ假定シテ後回シトナスハ妨ナシ

八 作圖題ハ證明ノ連絡上適當ノ處ニ於テ之ヲ授クヘシ

九 定理ノ形式、其ノ相互ノ關係等ハ最初ニ於テ授クルヨリモ寧稍々進ミタル後便
宜之ヲ授クルヲ可トス

十 三角法ニ於テ高サ、距離等ノ測法ハ其ノ實習ト共ニ成ルベク早ク之ヲ授ケテ興
味ニ訴フルコトヲ要ス

十一 圓函數ハ初算數ヲ用ヒ後對數ヲ用フルヲ可トス

十二 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ
日時計 時計 羅針盤 めいどる法尺 三種比較尺 日本秤 めいどる法分銅
臺秤 液量瓶 穀量瓶 めいどる法量器 外國度器 黑板用 こんばす 各
種ノ定規 ぐわるにわい模型 ておどりつと 卷尺 ちわいん 旗竿等

日本貨幣圖 外國貨幣圖 幾何立體ノ模型

中學校教授要目

七 物

第一 鑛物界

第一學年

每週二時

鑛物界ノ教授ハ細密ナル記載ニ偏スルコトナク又科學上ノ順序ニ泥ムコトナク生徒
日常ノ經驗ニ訴ヘ成ルベク具象ノ標本ヲ基礎トシテ鑛物界ニ關スル主要ナル事項ヲ
約說スベシ其ノ目凡次ノ如シ

水晶、砂岩

水晶ノ玉(石英) 水晶ノ自然形(結晶) 結晶ノ見分ケハ稜ニ銳鈍ニ依ルコト 結
晶ノ生長ノ仕方 結晶ノ集合體 水晶ノ脈等(産出ノ狀) 其ノ硬度、硬度ノ計リ
方 花崗岩ノ中ノ石英 石英ノ砂 河海ノ砂 砂層、粘土層、礫層(破片質水成
岩) 地層ノ形 砂岩 濱ノ砂ノ中ノ介 砂岩ノ中ノ介(化石) 珪岩

教授用具

水晶ノ玉 山ヨリ出タル儘ノ水晶 測角器 水晶ノ晶族 水晶ノ晶群 硬度計
花崗石 川ノ砂 砂岩 介化石ヲ含ミタル砂岩 珪岩

石炭

汽車汽船等ノ動力 石炭ノ用途 其ノ色、脆サ、焰ノ臭ニ等
石炭坑 石炭層 其ノ變位(皺、斷層等) 九州、北海道ニ於ケル石炭ノ產地 石

炭ノ生因 仙臺ノ埋レ木 泥炭 石墨

教授用具

石炭ノ片 石炭坑内ノ畫 厚紙、板、粘土等(地層ノ曲リ、厚サノ變化、斷層
等ヲ説明スル爲ノモノ) 仙臺ノ埋レ木 泥炭 鉛筆

粘土、粘板岩

瓦、煉化石、茶碗等ノ原料 其ノ製法 河沼等ノ底ニアル粘土 粘土ノ性質 陶
土 粘土ノ中ニ介化石ノ存在スルコト 石盤硯石等 粘板岩ト粘土ノ比較

教授用具

瓦、煉化石、茶碗 捏子タル粘土 川ノ粘土 介化石ヲ含ミタル粘土 學校ノ
石盤 墨キ硯石

石灰

漆喰ノ中ノ一原料 燒キテ石灰ヲ得ル石 石灰ノ燒キ竈 石灰岩ノ産出 鐘乳石
ノ生因 鹽酸ト石灰岩トノ反應 石灰岩ニ對スル水ノ作用 石灰洞石灰岩ノ材料
ナル方解石 其ノ劈開 重屈折 大理石 美濃赤坂ノ石灰山 石版用ノ石灰岩

珊瑚礁

教授用具

石灰 石灰岩 石灰ノ燒キ竈ノ畫 石灰岩堀リ場ノ畫 固有ノ凹凸多キ石灰岩

表面ヲ示ス書 鏡乳洞ノ書 鹽酸 方解石ノ劈開片(透明ナルモノ) 大理石
石版印刷ノ石 珊瑚礁ノ書

石油

石油ノ産出ト採取 汲ミ井戸、噴キ井戸其ノ色、臭ミ、比重、揮發性、製油所ら
ルル油 器械油、石蠟 越後ノ火ノ井戸(石油ト共ニ出ル瓦斯)

教授用具

山ヨリ出タル儘ノ石油 石蠟ノ蠟燭 器械油

硫黄

附木ノ硫黄 硫黄ノ色、つや、燃ユル臭ミ等 火山ノ蒸氣ト其ノ臭ミ 同所ニ生
スル花硫黄 硫黄ノ産出ノ狀 噴火山 硫氣ノ岩石分解 火山ノ岩石 火山灰
熔岩ノ形(共ニ生因) 岩脈 熔岩流

教授用具

附木 硫黄ノ粉 火山ノ花硫黄 硫黄ニテ朽チタル火山ノ石 火山岩 火山灰
富士ノ繩狀熔岩 岩脈ヲ示スヘキ粘土即成ノ模型 熔岩流ヲ示ス圖

銀、銅、鉛、鐵等

銀、銅、鉛、鐵等及其ノ合金ノ用途 銀、銅、鉛、鐵ノ鑛石 其ノ鑛山 輝銀鑛
ノ外見 方鉛鑛ニモ銀ヲ含ムコト 黃銅鑛 其ノ色、つや、粉末の色、燒クル臭

ミ等 方鉛鑛 其ノ色、つや、劈開等 吹管ヲ用ビテ分析スレハ鉛ヲ得ルコト

磁鐵鑛 其ノ色、磁氣 鑛石一般ノ産出 鑛脈、鑛床

教授用具

銅板 鉛ノ玉 鐵釘 輝銅鑛 黃銅鑛 條痕板 方鉛鑛(粗粒質ノモノ) 木炭
そーだ 吹管 ふらちな板 酒精燈 磁鐵鑛 鑛脈ヲ示ス圖 鑛塊ノ書 鑛脈
鑛塊ノ粘土模型

黄金

黄金ノ用途 其ノ鑛展 其ノ色、つや、比重 砂金 金鑛 北海道、佐渡等ニ於
ル金産地

教授用具

金箔 砂金場ノ書 黄金ヲ含ミタル石英脈

飾リノ石

寶石ノ特性 金剛石 日本ノ黄玉、水晶 孔雀石、瑪瑙 大理石、蛇紋石 琥珀
等 是等ノ物ノ用途

教授用具

日本ノ黄玉 孔雀石 大理石 蛇紋石 琥珀

岩石

石灰岩、砂岩、礫岩(層狀岩) 安山岩、花崗岩(塊狀岩) 岩石ノ生因 (水成岩、火成岩) 土地ノ岩石ノ生因ヨリ昔ノ地勢等ヲ知ルコト 岩ノ中ノ化石 海ノ介カ山ノ岩ノ中ニ見出サル、コト 奇形ノ化石ト其ノ時代 岩石識別ノ諸點 其ノ薄片ヲ顯微鏡ニテ見タル様子 粘板岩、大理石等、建築ノ石材 石垣ノ石材 礫岩等、道鋪ノ石材 石碓
教授用具

石灰岩 安山岩 花崗岩 わんもん介又ハ其ノ書 顯鏡ニテ岩石ヲ見タル様子
ヲ示ス圖

地球

地殼ノ構造(岩ト土) 層、皺、斷層、岩脈、岩株等 岩石分解、崩壞等 水蝕ト沈澱 石垣等ノ風化 景色ト地質トノ關係 地中ノ有用物 地變(火山、地震、山崩等) 大氣、氣象 四季、晝夜 地球ト日月 日蝕、月蝕 月ノ表面、運動惑星、太陽系 其ノ他ノ天體
教授用具

土 鐵道切り削リニ於ケル地層ノ斷面圖 堅岩ノ山ト軟岩ノ山ノ景色畫 風北シタル岩ト其ノ新鮮ナル部分 火山、地震山崩等ノ畫 雨量圖 風向圖 同温線圖 地球儀 羅針盤 日時計 日蝕、月蝕ノ説明圖 月ノ表面ノ畫 太陽系

ノ略圖

前記ノ教授事項及用具ノ目ハ其ノ目的及範圍ヲ示スニ止マレバ必シモ之ニ拘ハルコトナク便宜之ヲ變更スルコトヲ得要スルニ是等ハ成ルベク日常卑近ノモノニシテ鑛物及岩石ノ類ヲ代表シ且廣ク形態、理化學性、產出ノ狀、生因及變化、應用、地質上ニ於ケル相互ノ關係ニ涉リテ鑛物界全般ノ概念ヲ得シムル便アラシモノタルベシ

第二 植物

第二學年

每週二時

植物ノ教授ハ分類ニシテ偏スルコトナク植物界ノ現象全般ニ涉ルベシ其ノ事項ノ主要ナルモノ次ノ如シ

形態

植物體ノ主要ナル器官 其ノ種々ナル變形

解剖

植物體根本的構造ノ大要(細胞、導管、組織、細胞含有物ノ主要ナルモノ、根、莖、葉等ノ解剖) 顯微鏡及顯微鏡ノ用法

生理

營養 同化 吸收 通發 呼吸 生長 運動 刺戟感應 生殖等ノ大要 是等ノ諸作用ト人體及動物體ニ於ケルモノトノ類同

生態

植物生活ト外圍トノ關係 其ノ形態、解剖、生理、分布上ニ於ケル影響

分類

分類ノ主意 簡易ナル一ノ自然分類法 雙子葉類 其ノ主要ナル科ノ數例

單子葉類、其ノ主要ナル科ノ數例 松柏類 羊齒門、蕨苔門 菌藻門ノ大要、

發酵、腐敗、傳染病ノ原因タル下等植物ノ大要 學校所在地方ノ普通植物中顯

著ナルモノ、種類、名稱

分布

學校所在地方ニ於ケル植物ノ分布 生態的分布 植物群落 高山植物 海濱植物

砂地植物 濕地植物等 地球上ニ於ケル顯著ナル植物區系及日本植物區系ノ大要

應用

植物カ自然界ノ經濟上ニ及ボス影響 植物ノ人生ニ於ケル關係 木材其ノ他食用

藥用、工業用、園藝用等ニ係ル日本產及外國產植物中最主要ナルモノ其ノ有用ナ

ル部分ノ特性

前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追フテ授クルコトヲ要セズ適宜分合シテ授クルコト

ヲ得、特ニ季節ニ應ジテ適當ナル題目(例ハ春季ニ發芽、櫻花、菜花、秋季ニ果

實、紅葉、落葉等)ヲ選ミ之ニ就キテ便宜形態、解剖、生理、生態、分類、分布、

應用ノ諸項若ハ其ノ中ノ數項ヲ歸納的ニ授クルガ如キハ生徒ノ興味ヲ増シ理會ヲ助
クル益アリヘシ

第三 生理及衛生

第三學年 第一學期及第二學期

每週二時

總論

人體ハ有機體ナルコト、生理、衛生ノ意義 其ノ人生ニ於ケル價值、衛生及道德

人體作用ノ主要ナルモノ 器官系統 人體ヲ構造スル結局ノ要素ハ植物ニ於ケ

ルガ如ク細胞ナルコト

骨骼系統

骨骼ノ大要(頭骨、軀幹骨、上肢骨及下肢骨ノ主要ナルモノ) 關節及其ノ種類骨

ノ構造 軟骨 骨骼ノ作用

衛生

筋系統

筋ノ構造 腱、韌帶 筋ト骨トノ關係 筋系統ノ作用 直立及諸種ノ運動 (步

行、走行、跳ぶこと) 顯著ナル筋肉(兩頭筋三稜筋、大臂筋、腓腸二頭筋等)

衛生

消化系統

消化系統ノ諸部 其ノ消化作用 食物ノ種類 普通食物ノ成分ノ大要、其ノ營養及消化ノ程度

衛生

循環系統

血液 心臟ノ構造 動脈 靜脈 毛細管 心臟ノ鼓動 脈搏及其ノ數 循環系統ノ作用 淋巴管及腺

衛生

呼吸系統

肺臟及氣管ノ構造 呼吸運動 呼吸系統ノ作用 發聲器

皮膚

皮膚ノ構造、結締組織、脂肪 皮膚ノ作用 毛髮、爪

衛生

腎臟

腎臟ノ構造及作用

衛生

神經系統

腦ノ構造及作用 脊髓ノ構造及作用 神經ノ構造及作用 交感神經

衛生

五官

眼ノ構造及作用 耳ノ構造及作用 嗅器ノ構造及作用 味器ノ構造及作用 觸器ノ構造及作用

衛生(特ニ近視眼豫防上ノ注意)

全身ニ關スル事項

體溫、發熱 新陳代謝、生長、肥滿、羸瘦全身ノ調整

全身ノ衛生

清潔 運動、休息 起臥 修學時間 旅行ニ對スル心得 救急療法 疾病ニ對

スル心得等

公衆衛生

各器官系統ノ衛生ヲ授クル際其ノ系統ノ最難リ易キ疾病ノ名稱ヲ知ラシムヘシ

第四 動物

第三學年 第三學期

每週二時

第四學年 第一學期及第二學期

每週二時

第三學期

每週一時

動物ノ教授ハ分類ニノミ偏スルコトナク動物界ノ現象全般ニ涉ルヘシ其ノ事項ノ主

中學校教授要目

四六九

要ナルモノ次ノ如シ

分類

分類ノ主意 分類ノ方法 動物界諸門ノ概性

脊椎動物

哺乳類 鳥類 爬蟲類 兩棲類 魚類 各類諸目ノ大要

節足動物

多足類 蜘蛛類 昆蟲類 其ノ諸目ノ大要 甲殼類

軟體動物

瓣鰓類 腹足類 頭足類

蠕形動物

棘皮動物

腔腸動物

海綿動物

原生動物

分類ヲ授クルニハ顯著ナル適例ヲ示シテ綱或ハ主要ナル目ヲ説明スルニ止メ分類區分ノ名稱、特徵等ヲ細密ニ授クルコトヲ主トシテ動物界ニ含有セラルル動物ノ概念ヲ與フルコトヲ力ムヘシ又必スシモ前記ノ順序ニ係ルコトヲ要セス

習性

生徒ノ容易ニ實驗又ハ目撃シ得ヘキモノ、自然界ノ現象トシテ趣味アルモノ、及人類ニ關係アルモノ

解剖、組織

脊椎動物ノ解剖ハ人體解剖ト比較シテ大要ヲ授ケ其ノ下等ニ至ルニ從ヒ漸次簡單ニナルコトヲ知ラシメ無脊椎動物ニ在リテハ其ノ一二ニ就キテ解剖ヲ授ケ其ノ他ハ特ニ注目スヘキ點又ハ外部ヨリ觀察シ得ヘキ點ヲ舉グルルニ止ムヘシ
組織ニ於テハ動物體ハ細胞ヨリ成ルコトヲ知ラシムルヲ旨トシ必スシモ各器官ニ就キテ詳細ナル説明ヲナスコトヲ要セス

生殖、發生、生長

生物界ニハ自然發生ナキコト 無性生殖 有性生殖 卵 其ノ發生ノ大要 昆蟲特ニ蠶ノ變體 其ノ他ノ變體ノ大要
卵ノ發生ハかへる、うに、なめくじら等を等ノ卵ニ就キテ之ヲ説明スヘシ

生態

寄生 共生 保護色及其ノ他ノ彩色等

分布

動物ノ散布 世界分布區系ニ就キ二三顯著ナル事實

動物界ノ變遷

化石 過去ノ動物ハ現今ノ動物ト異ナルコト 顯著ナル化石
動物ノ數例
動物界ト植物界、礦物界トノ關係

應用

寄生蟲ニ對スル豫防 病毒媒介動物ニ對スル注意 農林業上ノ有害動物、有益動物
兩者ノ關係及其ノ應用 家畜、人爲淘汰 肥料 我國特ニ學校所在地方ニ於
ケル主要ナル水産物ノ利用 食料 衣料 藥品、香料、染料 裝飾品等

前記ノ事項ハ分類ヲ主トシテ各類ニ就キテ之ヲ授クルトモ、或ハ其ノ或ルモノハ分
類ト同時ニ之ヲ授ケテ其ノ他ノモノハ別ニ之ヲ授クルトモ妨ナシ
第五學年第三學期ニ於テハ第一學年ヨリ授ケ來リタル事項ヲ總括シテ
自然界ノ微妙複雜ナル關係 生存競争 自然淘汰 人爲淘汰 進化論
ノ大意ヲ約說シ自然界ト人類トノ關係ヲ理會セシムヘシ

教授上ノ注意

- 一 博物ニ於テハ室内教授ニ伴フニ野外觀察ヲ以テシ生徒ヲシテ修業ノ後博物ノ名
ヲ聞クトキハ直ニ自然界ヲ想ヒ出スニ至ラシメノコトヲ期スヘシ
- 二 博物ヲ授クルニハ實物ニ依リテ生徒ノ觀察及記載ヲ練習シ常ニ實物ニ訴ヘテ事

物ヲ判斷スル習性ヲ養成スヘシ之ガ爲時トシテ其ノ教材タル實物ノ要點ヲ簡明
ニ寫生セシムルコトアルヘシ

三 博物ハ區分シテ之ヲ授クト雖モ常ニ礦物、植物、動物三界ノ相互ノ關係ニ留意
シ生徒ヲシテ自然界ノ統一ニ就キテ明晰ナル概念ヲ得シムヘシ

四 人生ニ關係アル顯著ナル天然物ニ就キテハ直接、間接ニ其ノ有用又ハ有害ナル
理由ヲ示シ且其ノ利用ヲ苟且ニ附スヘカヲサルコトヲ知ラシムヘシ

五 各地固有ノ風景ハ之ヲ構成スル礦物、岩石、植物、動物ニ歸スルコト多キモノ
ナレバ學校所在地方ニ於ケル其ノ種類、分布又ハ生態ヲ野外ニ於テ親シク示シ
生徒ヲシテ自然界ヲ愛シ從ヒテ己ノ郷土ヲ慕フ念ヲ起サシメ又進ミテハ熱帶、
溫帶、寒帶ノ風景ノ異ナルコトヲ說キテ他郷異邦ニ遊ブ快樂ヲ覺ラシムヘシ

六 植物及動物教材ハ成ルベク日本産普通ノ生産物中ヨリ之ヲ採ルヲ可トスト雖モ
亦世界各地ニ産スル生物ニシテ最も顯著ニ且最も緊要ナルモノ、如キハ之ヲ引
用セシムコトヲ要ス

七 解剖、組織ヲ授クルニハ實物ニ就キテ解剖ヲ行ヒ又諸組織ノ簡易ニシテ生徒ノ
理會シ得ヘキモノハふればら—トテ用ヒテ説明スヘシ

八 人體内臟ノ構造ヲ授クルニハ他ノ動物、就中哺乳類ヲ解剖シテ之ヲ明ニスヘシ
又毛細管中ノ循環ハ蛙等ニ就キテ其ノ實狀ヲ目撃セシムヘシ

- 八 植物ノ教材ハ悉ク季節ニ從ヒテ之ヲ配列スルコト能ハサルモ成ルヘク季節ニ對應セシメシコトヲ力ムヘシ
- 九 生理及衛生ヲ授クルニハ各器官系統相互ノ關係ニ注意シ其ノ箇々獨立ノモノニアラサルコトヲ明ニスヘシ
- 十 生理及衛生ノ事項ハ出來得ル限生徒自身ノ身體及經驗ニ訴ヘテ歸納的ニ之ヲ授ケ其ノ生徒自身ニ極メテ親密ナル關係アルコトヲ知ラシムヘシ
- 十一 適當ノ機會ニ於テ日常最近ノ現象、例ヘバ循環ニ於テ赤面スルコト、顔面ノ蒼クナルコト、呼吸ニ於テくさめ、さぐり、わくび、せきノ類ヲ説明シテ興味ヲ添ヘン事ヲ力ムヘシ
- 十二 衛生ニ於テハ吾人、日常ノ生活ニ最モ近接ナル事項ヲ授ケヘシ
- 十三 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ
博物全體ニ通スルモノ
顯微鏡 蟲眼鏡 解剖用具（解剖針、解剖刀、解剖鉗、解剖皿、びんせつど等）
みくろとじむ 剃刀 革砥 消毒器 酒精燈 試驗管 諸種ノ壘 貯藏藥品 其ノ他ノ材料
顯微鏡ハ接物れんす及接眼れんすノ組ミ合ヒニ依リ凡五十倍乃至四百倍ノ間ニ種々ノ廓大度ヲ有スルモノヲ以テ最モ便利トス

鐵物ニ關スルモノ

- 鐵槌 採集囊 吹管分析用具 硬度計 天秤 螺旋秤 測角器 條痕板 あねる
- いん時晴雨計 寒暖計 日時計 羅針盤 地球儀
- 主要ナル鐵物 結晶、晶簇、晶群ヲ示ス標本 主要ナル岩石 化石ヲ含ミタル岩石 鑛物、岩石ヲ原料トシタル加工品 風化ヲ示ス標本 簡單ナル結晶形ヲ示ス模型 鑛脈、鑛床、鑛坑ノ内部、地層、斷層、火山等ヲ示ス模型又ハ圖書 風景圖 雨量圖 風向圖 同溫線圖 其ノ他ノ掛圖

植物ニ關スルモノ

- 採集網籃 壓搾器 主要ナル生理器械 乾燥標本
- 主要ナル植物ノ腊葉 學校所在地方ノ植物腊葉 材鑑 半輪其ノ他幹ノ構造ヲ示スモノ 纖維原料及製品 有用乾燥果實及種子 藥用植物、纖維植物、染料植物等ノ有用植物 澱粉製品 有毒植物 農業植物及果樹ノ媒助昆蟲 主要ナル組織ノふればらーど 微細植物のふればらーど
- 乾燥標本トシテ備フルモノハ生標本ヲ得難キモノ又ハ腊葉トシテ尙天然ノ色及形ヲ保存スルモノタルヘシ而シテ有用植物ノ標本ハ單ニ花及枝葉ノ形狀ニ重キヲ置カヌ主トシテ其ノ用途ニ從ヒテ有用ノ部分ヲ具備セシムヘシ例ヘバ根ヨリ

澱粉ヲ取ルモノハ糧部、皮ヨリ纖維ヲ取ルモノハ皮部ヲ具備セシムルカ如シ
ある之ハ又ハふおるまりん標本

多肉果實 多肉植物 食蟲植物 寄生植物 有毒菌類 食用菌類
ある之ハ又ハふおるまりん標本トシテ備フルモノハ實驗ニ使用スヘキ材料ニ
シテ季節ニ於テ容易ニ得難キモノ又ハ其ノ時期長カラスシテ適當ノ季節ヲ誤ル
虞アルモノハ模範的ニシテ大ナル果實ノ解剖標本、其ノ他乾燥スルトキハ天然
ノ状態ヲ損フコト甚シキ虞アルモノナルヘシ

生標本

主要ナル山林樹木 藥用植物、纖維植物、染料植物等ノ有用植物 有毒植物

菜花又ハ果實ノ色、大サ、形等ノ顯著ナルモノ形狀、生態等ノ珍奇ナルモノ普

通ノ接ぎ木、採り木等花壇ニ定時又ハ臨時ニ材料ヲ得ル所タルノミナラス又屋

外教授ヲモナシ得ヘキ所ヲラシメトナ要ス

花壇ニハ簡單ナル分類花壇ノ外、生花壇、生態花壇等ヲ設ケ生花壇ニハ就

眠植物、纏繞植物等ヲ、生態花壇ニハ肉食植物、寄生植物等ヲ植ケルモ亦興ア

ルヘシ

前記ノ外模型又ハ圖書ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス

植物園、農事試驗場等ノ設アル地方ニ在リテハ之ヲ利用シ學校ノ設備ノ不足ヲ補

ハンコトサカムヘシ

生理及衛生ニ關スルモノ

檢眼鏡 暗箱 實體鏡ニ觸覺ヲ測ル器 體溫器 救急函 人體骨格 人體ノ紙塑

模型 眼ノ模型 耳ノ模型 主要ナル組織ノふればら一と 病菌ノふればら一と

人體寄生動物掛圖

動物ニ關スルモノ

捕蟲網 ざるつち ざる一る ちつば一 採集箱 展翅板 注射器 解剖用鋸

骨鏡

主要ナル綱目ヲ代表スル動物 其ノ骨格 解剖、生長、變體等ヲ示ス標本又ハ模

型 保護色、季候變形、兩性變形、寄生、共生等ヲ示ス標本又ハ模型 有用動物

有害動物 學校所在地方ノ動物 動物ヲ原料トシタル加工品 主要ナル組織ノ

ふればら一と 微細動物ノふればら一と 化石動物數種又ハ其ノ模型或ハ圖

動物ノ標本ハ生標本ヲ以テ最良トス然レドモ種々ノ事情ニ依リ之ヲ備ヘ難キコト

多キガ故ニ刺製標本、ある之ハ標本等ヲ備フルコトヲ要ス而シテ是等ノ標本ハ

生キタル動物ノ代表者ナレバ成ルヘク其ノ生態ヲ示スモノヲ可トスある之ハ標

本ニシテ收縮等ニ依リ其ノ生時ノ状態ヲ推知シ能ハサルモノ、如キハ教授上殆ド

無益ナリトス

掛圖ハ時トシテ標本ヨリモ用チナスコト多キコトアレバ十分ニ之ヲ利用スヘシ動
物園、水産試験場等ノ設アル地方ニ在リテハ之ヲ利用シ學校ノ設備ノ不足ヲ補ハ
シコトヲカスヘシ

物理及化學

第一 物理

第五學年

每週四時

力學

長サ、面積、立積、時ノ單位 靜止及運動 速度及其ノ計リ方加速動 運動ノ組
立及分解 圓運動 慣性 力 質量 質量ノ單位 密度 力ノ絕對單位 力ノ重
力單位 運動量 作用及反動 質點ニ作用スル力ノ組立及分解 重力 落體 抛
射體 剛體ニ作用スル力ノ組立及分解 力ノ能率 重心物體ノ座リ 天秤 挺子
、輪軸、滑車等 摩擦 仕事 仕事ノ單位 ねねるぎニ二種アルコト ねねる
ぎノ保存 單振子 合成振子 相當單一振子 時計 9ノ測定 宇宙引力
物性

分子 分子力 物質ノ三態 彈性 ふつくノ定律 毛管現象 表面張力 滲散
滲透 吸收 液體ノ壓力 ばすかるノ原理 水壓器 重力ニヨリテ生スル壓力
水平面 水準器 ねねるぎニ二種アルコト ねねるぎノ測定 浮游體 比重及其ノ測定 浮秤 流出液

ノ速度 大氣ノ壓力 どりちねりーの實驗 晴雨計 晴雨計ニヨリテ山ノ高サヲ
測ルコト 大氣中ノ浮力 ばいるノ定律 空氣ばんぶ 水ばんぶ 物質ノ保存

音響

振動 週期 振動數 振幅 波動 波及ノ速度 波長 位相 高低波 疎密波
音響ノ發生及傳達 音響ノ速度 音ノ反射 音ノ干涉 音ノ強サ 音ノ高サ 音
ノ音色 原音 陪音 人ノ音聲及音樂ニ用フル音ノ振動數 蘇音器 唸リ 共鳴
リ 絃、板、膜、棒、氣柱等ノ振動

熱

溫度 諸種ノ寒暖計 固體ノ膨脹 膨脹ニ伴フ密度ノ變化 膨脹係數 液體ノ膨
脹 水ノ膨脹 體ノ膨脹 しやーるノ定律 ばいるノ定律 トしやーるノ定律 トノ
關係 絕對溫度 熱量及其ノ單位 物體ノ熱容量 物質ノ比熱 比熱ノ測定 熱
ハねねるぎニナルコト 仕事當量 しやうるノ實驗 蒸氣機關 融解及凝固 融
解熱 寒劑 蒸發沸騰 氣化熱 液化 濕度及濕度計 蒸氣 傳導 安全燈 對
流輻射

光

光體 光ノ直進 陰影 速度 香明、半鏡明、不透明 光ノ強サ 光度計 反射
ノ定律 散光 平面鏡 像 球面鏡 焦點距離 屈折ノ定律 屈折率 逐次ノ屈

折 全反射 ねんす ねんすノ焦點距離及ねんすノ作ル像 暗箱 眼鏡 顯微鏡
 望遠鏡 幻燈 ふりすむ 光の分散 すべくとる 分光器 すべくとるノ種類
 ふらうんはーふねる線 輻射線ノ種類 輻射ト吸收トノ關係 すべくとるノ分析
 虹 物體ノ色 燐光螢光 光ノ波動説 波長 光ノ干涉 光ノ偏り 複屈折
 磁器

磁石ノ兩極 羅針盤 兩極間ノ作用 磁器ノ感應 くーるんノ定律 磁場及指力
 線 磁石ノ作り方 地磁器 方位角 傾角 水平分力 等磁線及地磁器ノ變化
 靜電氣

摩擦ニヨル發電 傳導 二種ノ電氣 くーるんノ定律 電氣量ノ單位 驗電器
 電氣ノ分配 尖點ノ作用 電氣ノ感應 ういひしやーすとノ起電器 ばてんしや
 る 電氣容量 れいでん瓶及こんでんさー 雷電 避雷針
 流動電氣

電池 極 電流 輪道 電動力 各種ノ電池 ねるすてつとノ實驗 わんべーる
 ノ定律 電流ノ作ル磁場 そののいせ 電流相互ノ作用 電磁石 電鈴 電信機
 電流計 無定位針 抗抵 おーむノ定律 電氣諸量ノ單位 輪道ノ分派 電池ノ
 繋ぎ方 電磁氣感應 相互感應 れんつノ定律 自己感應 ねんすとるふノ感應
 器 電大化 かいすれる管 くるーくす管 れんとびんノ實驗 電話 微音器

いなり及電氣發動機 じやうるノ定律 電燈 熱電流 電流ノねねるぎー 電
 氣分解 ふあちでーの定律 電鍍術及電鑄術 蓄電池
 尺貫法單位ノ外めーとる法特ニCGS法ヲ授クヘシ
 光ノ波動説、偏り及複屈折ハ其ノ大意ヲ説クニ止ムヘシ

第二 化學

第一學期及第二學期

每週三時

第三學期

每週四時

普通ノ氣體

空氣、酸素及窒素 燃燒及酸化 化學變化 化合物、單體及元素 質量ノ不變
 水及水素 定化例ノ定律 無水炭酸 炭素ノ循環 元素ノ不滅 酸化炭素 倍數
 比例ノ定律 熱化水素及鹽素 あひもにわ及鹽化あひもにうひ氣體ノ通性 氣體
 反應ノ定律 分子量 原子量 記號 分子式 實驗式 原子價 基 示性式 原
 子分子記

酸素及其ノ化合物

酸素及おとん 酸化物、水酸化物及過酸化物 酸化物ノ分類 酸、鹽基及鹽非金

屬元素及金屬元素

はるげん及其ノ化合物

鹽素、臭素、沃素及弗素 はろげん化物 はろげんノ酸化物、酸及塩 溶液 飽和及結晶 電解及其ノ定律

硫黃及其ノ化合物

硫黃 硫化物 硫黃ノ酸化物、酸及鹽

溶液

溶液ノ滲透壓 蒸氣壓、沸點及冰點ノ變化 電解質ノ水溶液ノ特點 電離 酸及

鹽基ノ強弱 中和熱 反應熱

窒素、磷、砒素及其ノ化合物

窒素、磷及砒素 其ノ水素化物 其ノはろげん化物 其ノ酸化物、酸及鹽 窒素

ノ循環

活動量

化學變化ノ速度 活動量 可逆反應 化學平衡

炭素、珪素、硼素及其ノ化合物

炭素 木炭及石炭 炭瓦斯及水瓦斯 めたん、わちれん及あせられん 火焰 炭

素ノ酸化物及硫化物 炭酸及其ノ鹽 しあん及しあん化合物 錯鹽 珪素、珪酸

及其ノ鹽 硼素、硼酸及其ノ鹽

金屬及其ノ化合物

なとりうむ、かりうむ及其ノ化合物 あむにもにうむ化合物 かるしうむ及其ノ化

合物 まぐねしうむ、亜鉛及其ノ化合物 鐵、につける、こぼると、まんがん、

くろむ、あむみにうむ及其ノ化合物 錫、鉛、蒼鉛、あんちもん及其ノ化合物

銅、銀、水銀 金、白金及其ノ化合物 合金 冶金術

週期律

原子量ノ順序と配列シテノ元氣ノ比較 原子量ト物理性質及化學性質トノ比較

有機化合物通説

有機化合物ノ特性 其ノ成分 異性體 構造式

脂肪族化合物

鎖狀炭化水素 石油 あるこゝる類 はろげん誘導體 ねーてる類 あるでひと

類及けとん類 酸類 ねすてる類 蠟 油及脂肪 石鹼 あみん類及あみど化合

物 炭水化物

芳香族化合物

こゝるたゝる べんせん及其ノ同族體 にとろ及あみの誘導體 ふねのる類 酸

類 なふたれん及あんつらせん ありざりん、藍靛及あにりん染料 てるべん及

樟腦族 びりちん、きのりん及あるかるいと 蛋白質

醱酵及腐敗

醱酵、酵素及酵母、腐敗、消毒及防腐、硫酸、あるかり、漂白劑、肥料、硝子、陶磁器、漆喰、せめんど、合金等ノ製法及用途、普通金屬ノ冶金、寫真、染色、醸造等應用ニ關スル事項ハ適當ノ機會ニ於テ之ヲ授クヘシ

教授上ノ注意

- 一 物理及化學ヲ授クルニハ成ルヘク卑近ナル實例ニ依リ且器械、標本等ノ許ス限實物ヲ示シ實驗ヲ行フヘシ
- 二 密度ト比重トノ質量ト重キトノ區別ハ初學者ノ誤リ易キモノナレハ特ニ注意シテ之ヲ明コスヘシ
- 三 物質保存及ぬねる等ノ保存ノ二大定律ハ物理學ノ骨子タレハ其ノ諸目ヲ授クルニ當リ常ニ此二定律ニ留意スヘシ
- 四 化學上ノ定律及學說ハ生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ク尙遍ク化學ノ諸目ニ通シテ之カ活用ヲ示シ徒ニ高遠ナル理論ニ馳セサランコトヲ要ス特ニ溶液ニ關スル諸目ノ如キハ日常ノ事柄ニ關聯スルモノ少カラサレハ適例ヲ擧ケテ充分之ヲ説明スヘシ
- 五 時々簡易ナル計算問題ヲ課シ生徒既得ノ知識ヲ精確ナラシムヘシ
- 六 實驗ハ教授前周到ニ注意シテ之ヲ試ミ教授ノ際仕損シヤカラソコトナカムヘシ

七 實驗ニ要スル器械、器具、材料及藥品等ハ成ルヘク教授前ニ教室ニ出シテ準備シ置クヘシ

八 實驗ハ之ヲ全體ノ生徒ニ同時ニ示サソコトニ留意シ教員及前面ノ生徒ノミ之ヲ見テ他ハ之ヲ見得サル弊ニ陥ラサランコトヲ要ス例ヘハ物理ニ於テ金箔驗電器ノ金箔ノ開閉及電流計ノ針ノ運動ヲ示ス如キ實驗ハ之ヲ一人ツ、各自ニ見シムルトキハ時間ヲ費ヤスコト多キニヨリ能フヘクシハ教室ノ窓ヲ閉ヤテ暗黒ナラシメ得ル裝置ヲナシヘリおすたつとヲ以テ太陽ノ光ヲ導キ色消れんすノ口徑五六センチちりーとるニシテ焦點距離ノ長キモノ(一メートルとる)ト短キモノ(二十乃至三十センチちりーとる)ヲ使用シテ幻燈的ニ教室ノ内壁ニ投影セシムルナドモ一策ナリ

九 學校附近ニ工場等アルトキハ成ルヘク實地ニ就キテ機械工業、化學工業等ノ説明ヲ與フヘシ

十 物理ト化學トハ成ルヘク同一ノ教員之ヲ擔任シ其ノ教授ハ互ニ關聯補充スヘキハ勿論又他ノ學科目特ニ博物數學トノ連絡ヲ圖ルヘシ

十一 術語ハ物理ニ於テハ成ルヘク東京數學物理學會編纂物理學術語和佛獨對譯字書ニ、化學ニ於テハ成ルヘク高松豐吉櫻井錠二編纂化學語彙ニ據ルヘシ

十二 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

尺 めーとる尺 卷尺 紙すけーる數枚 日本秤 五〇〇〇及五〇〇〇ノ硝子製量器 時計 ぐるにのー模型 回轉器 鐵、亞鉛、銅、眞鍮等ノ同大ノ球及圓環 象牙球 鐵すぶりんぐ(螺旋形ニシテ強キモノ及弱キモノ) 化學天秤 精微分銅一組 天秤 日本秤 臺秤 分銅 鉛製分銅數箇(五十瓦、百瓦、一さる瓦等各數箇) 大小單滑車數箇 輪軸 各種滑車 斜面螺旋等ノ標本 軸すたんど數箇 上下臺 取付萬力 試驗管各種 蒸發皿 びーかー大小數箇 硝子管大小數種 毛細管數種 ふらすこ若干 硝子板 びー管細大數種 木栓大小數種 金工道具 木工道具

ばすかるノ原理ヲ示ス器 底壓ヲ示ス装置 ふらま水壓器 連通水平器 準浮秤(にこそん及ばーめー) あるさめですノ原理ヲ示ス装置 比重瓶 水銀晴雨計 あねるいと晴雨計 空氣ばんぶ及附屬品 水ばんぶ 波動ヲ示ス装置 さぐあーる齒輪 音叉(振動數ノ知レタルモノ二三種及両脚ニ重錘ヲ附シ之ヲ移動セシメテ音調ヲ變シ得ルモノ二三種)ものこーど 風琴管りーとばいぶ 蘇音器 さいれん くらとにノ實驗ヲ示ス圓板、角板及萬力 寒暖計(水銀、あるこーる、最高、最低、乾濕球等ノ攝氏目盛寒暖計、外ニ華氏目盛寒暖計一本) 標準點ヲ定ムル装置 金屬ノ膨脹ヲ示ス器 補整振子 蒸氣

器械模型 いんげんはうす熱傳導比較器 安全燈 平面鏡 凹凸球面鏡 四方硝子水入箱 おふちかるべんちノ用ヲナスヘキV字形溝付長板及其ノ上ニ動クヘキ臺 ぶりすじ(直角及六十度) 液ぶりすじ れんす數種(凹凸共) 顯微鏡 望遠鏡 雙眼鏡 すべくとろめーとる 色硝子數種 寫眞器械 眼球模型 ぬいすらんどすばー 偏光器 へりおすたつと 棒磁石二本一組 馬蹄形磁石 羅針盤 傾角針 振り秤ノ装置(靜電氣ニモ使用スルモノ) 鐵粉 鐵棒 鋼棒 ねばないと棒、硝子棒、猫皮等ノ一組 絶緣臺 金箱驗電器 電氣振子 電氣盆 ういじやーすと起電機(放電ヲ示ス附屬器附)れいでん瓶數箇(大小又分解シ得ルモノヲ含ム) 放電子 電氣ノ表面ニシアルコトヲ示ス装置 ぶんせん、だにゆる、乾電池等ノ電池各數箇 鏡附高抵抗電流計(らんぶすけーる附)正切電流計 粗製電流計 それのいと めんべーる臺 電磁石 電鈴 もーるす印字機 受話器 微音送話器 抵抗箱 すらいとぶりつち 感應ヲ示スこーとる一組 感應こーとる がいすれる管 くるーくす管(又線に使用シ得ルモノ) 青酸白金ばりうじくりーん はんどだいなも もーとる 白熱電燈 あーく燈 ぶーもばいる 電氣分解器 絶緣不絶緣ノ銅線數種 器械及其ノ標本ハ總テノ種類ノモノヲ完備スルコトヲ得バ甚々好都合ナルコト勿

論ナレトモ經費等ノ事情ニ依リ之ヲ許サ、ルコト多シ宜ク輕重ヲ察シテ之ヲ選擇スヘシ次ニ與タル所ハ此選擇ヲナズニ當リ考フヘキ主要ノ點ナリ

器械ニハ其ノ製作上甚ク精巧ナルモノト然ラサルモノトアリ例ヘハ前者ニハ一むこるふ感應こいるノ如キアリ後者ニハ作用ト反動トヲ示ス器ノ如キアリ而シテ感應こいるノ如キ精巧ナルヘキ性質ノモノニシテ唯々外觀ノミ美ニシテ其ノ用ヲササ、ルモノアリ此種ノモノハ價ヲ吝マス良好ノモノヲ購入スヘシ分光器ノ如キモ不長ノモノヲ購入シテふらうんは—ふむる線ヲタニ示スコト能ハサリシ例アリ又精巧ヲ要セサル性質ノモノニシテ徒ニ華美ナル臺ヲ附ケ柱ヲ立テ金具ヲ以テ飾リ強ヒテ外觀ノ美ヲ街フモノアリ是等ノ器械ヲ購入スルハ全ク無用ノ業ナレハ極メテ粗製ノモノヲ有スレハ可ナリ

作用ト反動トヲ示ス器ノ如キハ粗製ニテ可ナルコトヲ述ヘタレトモ尙一步進ミテ考フルトキハ此ノ如キモノハ殆ト購入ノ價値ナキモノナリ是等ノ器械ハ教室ニ備ヘ置クヘキサカん及象牙球又ハ木球等ヲ用ヒテ隨時裝置シ得ヘキナリ特ニ注意スヘキハ新ラシキ事實現象ヲ示スニ一々特種ノ器械又ハ裝置ヲ用フルトキハ生徒ハ此ノ如キ器械ニ非サレハ是等ノ事實現象ヲ學ビ得サルモノト考フルニ至ルコトアリ故ニ止ムヲ得サル場合ニ於テ特別ノ器械裝置ヲ用フルトキハ充分ニ生徒ヲシテ其ノ精巧ノ器械裝置ヲ要スル所以ヲ悟ラシメ然ラサル場合ニ於テハ成ルヘキ丈

ケ勿體ラシキ器械裝置ヲ使用セサル様ニスヘシ
化學ニ關スルモノ

酒精燈及酒精噴燈若ハ瓦斯燈 化學天秤及分銅 寒暖計 木栓壓搾器 木栓穿孔器 圓形鏟 三角形鏟 鍬 小刀 吹管 吹管用燈 磁製及鉛製坩堝 坩堝挾 足踏踏 手輪 燃燒匙 燃燒管 乳鉢及乳棒 漏斗及漏斗臺 ビヘツト ビトルと
及及れつと臺 ねどると及れどると臺 冷却器及冷却器臺 木製及金屬製架臺 三脚臺 湯煎器 水浴 空氣浴 劃度圓筒 量液瓶 挾止 挾子 活栓付硝子管 水槽 瓦斯溜 さつふ氏氣體發生器 U字形乾燥器 塔狀乾燥器 乾燥放冷器 有口硝子鐘 有底圓筒 炭酸定量器 水ノ電解器 鹽化水素ノ電解器 加里球 むじむじにわ容積成分測定器 鹽化水素容積成分測定器 ゆーちおめーどる
驗氣器 滲透壓實驗器 示差寒暖計 溶液沸點測定器 溶液水點測定器 ビーカ
平蒸發皿 時計皿 廣口硝子壺 狹口硝子瓶 丸底硝子瓶 平底硝子瓶 三口瓶
二口瓶 安全管 漏斗管 活栓付漏斗管 硝子板 硝子管 硝子棒 試驗管
こじ管 濾紙 白金線 銅線 木栓 金網 其他ノ諸材料

夫ノ諸製造等ノ裝置機關ヲ示ス模型又ハ掛圖

硫酸製造 礆のかり製造 石炭ノ乾溜 陶磁器窯 反射爐 鼓風爐 製鋼爐
釀造 蔗精製造

化學藥品ハ之ヲ示サスト雖モ此要目ニ關スルモノニシテ保存ニ不便ナルモノ若ハ
高價ナルモノ、外ハ必ス之ヲ備ヘ其ノ品質ニ依リ或ハ之ヲ標本用トシ或ハ兼テ
之ヲ試驗用トスヘシ

法制及經濟

第五學年

每週二時

法制

法制、經濟及道德

國體及政體

天皇

皇位繼承 大權

臣民

國籍 臣民ノ權利義務

帝國議會

議會ノ組織、權限 議會ノ召集、會期、開會、閉會、停會及衆議院ノ解散

國務大臣及樞密顧問

司法裁判所

裁判所 辯護士 執達吏、公證人 民事訴訟、刑事訴訟及非訟事件

行政

外務行政 內務行政 財務行政 軍事行政 教育行政 農商務行政 遞信行政

府縣

地方長官附警視總監 府縣會 府縣參事會

郡

郡長 郡會 郡參事會

市町村

市會、町村會 市參事會 市長、町村長

行政ヲ授ケル際適當ノ機會ニ於テ臺灣總督及北海道廳長官ニ關スル事項ヲ知ラ

シムヘシ

行政裁判所

行政訴訟 訴訟

人及法人

未成年者 禁治產者、準禁治產者、法人

物權

物權ノ性質 物權ノ主要ナル種類

債權

債權ノ性質 債權ノ主要ナル原因

親族

親等 家 親子 親權 後見 婚姻 扶養ノ義務

相續

家督相續 遺產相續 遺言

經濟

經濟上主要ナル概念

生産

生産ノ要素 分業及協力 企業 機械 競争

交換

物價附市場 貨幣及現行貨幣制度 信用及信用證券 銀行 貿易 交通

分配

地代 利子 賃銀 利潤

消費

消費ノ種類 家計 勤儉貯蓄 保險

財政

豫算 租稅 公債

前記ノ事項ハ必スシモ順序ヲ違フテ授クルコトヲ要セス便宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得特ニ日常ノ生活上出來スヘキ事實(例ハ法制ニ於テ選舉、賃借等經濟ニ於テ賃銀、家計等)ノ中ヨリ適當ノ題目ヲ選ミ之ニ就キテ前記ノ諸項若ハ數項ヲ授クルガ如キニ生徒ノ興味ヲ増シ總會ヲ助クル益アルヘシ

教授上ノ注意

- 一 法制及經濟ハ理論ニ馳セス學說ニ泥マス日常生活ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ國民的經濟的思想ヲ養ハシコトヲ要ス
- 二 統治及行政機關ノ組織、作用ヲ授クルニハ各種ノ地位職業ニ應シテ實踐上必須ナル臣民ノ權利義務、其ノ他警察、租稅、手数料、兵役、條約、戶籍等ニ關スル主要ナル行政事務ヲ知ラシムヘシ
- 三 私法ニ關スル諸目ニ於テハ唯々民事ニ關スル事項ヲ授クルノミナラス商事ノ概念(例ハ法人ノ目ニ於テ商事會社ノ種類性質等、債權ノ目ニ於テ商事上ノ債權債務等)ヲモ併セ授クヘシ
- 四 經濟ニ於テハ主要ナル經濟上ノ現象及其ノ理法ヲ授クルト共ニ現時ニ於ケル我國經濟上ノ狀態ヲモ知ラシムヘシ
- 五 財政ニ關スル諸目ニ於テハ單ニ國家ノ財政ノミニ止ラス市町村其ノ他地方團體ノ財政ヲモ説キ法制ニ於テ授ケタル是等ノ團體ノ概念ヲ補修セシムヘシ

六 法制上經濟上ハ教授上相關聯シテ互ニ補充スヘキハ勿論又他ノ學科目トノ連絡ヲ圖リ特ニ修身、歴史及地理ト密接ノ關係ヲ保タシムヘシ

七 此要目ノ順序ニ依ラス日常生活ノ事實ヲ基礎トシテ教授スル場合ト雖モ目的ヲ誤マラサランコトハ勿論教材ノ連絡ヲ闕キ生徒ニ正確ナル思想ヲ得シメザル弊ニ陥ラザランコトニ留意スヘシ

圖畫

第一學年

每週一時

自在書

寫生書、臨書

簡單ナル幾何形體、器具、植物、動物ノ類

第二學年

每週一時

自在書

寫生書、臨書

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又生徒學力ノ進度ニ應ジテ便宜著色書ヲ加ヘ授クヘシ

用器書

幾何書

直線、角、圓、多角形、常用曲線等ニ關スル描法

第三學年

每週一時

自在書

寫生書、臨書

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又著色書ヲ加ヘ授クヘシ

考案書

寫生書、臨書及幾何書ニ於テ習得シタル技能ヲ應用シテ簡單ナル圖案ノ類ヲ構成セシムヘシ

第四學年

每週一時

自在書

寫生書、考案書

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ人物景色ノ類ニ及カスヘシ

用器書

幾何書

各種ノ平面形、立體(角錐、角錐、圓錐、圓錐)、立體ノ截斷及立〇表面ノ展開ニ關スル投影書

第五學年ニ於テ圖畫ヲ加ヘタルトキハ前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又透視書法ノ

一斑ヲ授クルコトヲ得

教授上ノ注意

- 一 寫生畫ニ於テハ實物又ハ模造ニ就キ生徒ヲシテ視像ノ形狀、陰影及色ヲ正シク判斷スルコトヲ習ハシメ且物體ノ位置距離等ニ從ヒテ視像ノ異ルコトヲ理會セシメ精確ニ之ヲ模寫スル技能ヲ養フヘシ
- 二 寫生畫ヲ授クルニハ成ルヘク先ツ教員自ラ模範畫ヲ示シテ其ノ布置描法ヲ説明スヘシ
- 三 臨畫ハ寫生畫ト關聯シテ之ヲ授ケ教授ノ際成ルヘク先ツ實物ヲ示シ臨本ニ對照シテ説明ヲ加フヘシ
- 四 臨本ハ正格ナル畫法ニ基キ奇癖ニ陥ル嫌ナキモノタルヘシ
- 五 畫題ハ成ルヘク他ノ學科目ト教授上ノ連絡ヲ圖リ應用ノ廣キモノ又ハ生徒ノ趣味ヲ養フニ足ルモノヲ選ヒ其ノ高尚ニ過クルモノ或ハ鄙陋ニ涉ルモノハ之ヲ避クヘシ
- 六 生徒ヲシテ常ニ姿勢及執筆ヲ正シクセシムヘシ
- 七 生徒ヲシテ成ルヘク名畫ノ類ヲ見シメシムコトニ留意スヘシ
- 八 生徒ヲシテ常ニ器具ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ
- 九 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

臨本 幾何立體ノ模型 動物、植物及人物ノ模型 寫生用實物 畫板 筆洗 繪具 皿 圖引器械 黑板用こんばす 黑板用各種ノ定規 投影畫法ヲ示ス裝置

寫生畫教授用トシテ透視畫法ノ説明ニ用フル簡單ナル裝置

唱歌

第一學年

每週一時

普通樂譜法

- 雪中行軍(中學唱歌) 運動會(同上) 明日は日曜(同上) 朋友(國教唱歌集)朝起の鐘(中學唱歌) 駒の蹄(同上) 雲雀(同上) 牛おふ童(同上) 我等は中學一年生(同上) 前途萬里(同上) 占守島(同上) 夏やすみ(同上)

第二學年

每週一時

普通樂譜法

- 太平洋(中學唱歌) 四季の朝(同上) 寄宿舎の古釣瓶(同上) 大皇國(國教唱歌集) 馬上の少年(中學唱歌) 旅路の愉快(同上) 告別(同上) 義勇奉公(國教唱歌集) 箱根八里(中學唱歌) 松下清水(同上) 去年今夜(同上) 七倒八起(國教唱歌集)

第三學年

每週一時

普通樂譜法

- 豐太閤(中學唱歌) 荒城月(同上) 遠別離(同上) 昇る日(國教唱歌集) 甲鐵艦(中學)

中學校教授要目

四九七

學唱歌) 小川の流(同上) 歸雁(同上) 世界はひろし(輪唱) (重音唱歌集) 樂しき教場 (中學唱歌) 今は學校後に見て(同上) 御國の民(中學唱歌集) 埴生の宿(重音又(同上))

前記各學年ニ配當シタル歌曲ハ其ノ程度ヲ示スニ止マレハ便宜之ヲ交換加除スルコトヲ得要スルニ歌詞、曲譜ハ共ニ生徒ノ知識感情ニ適應シタルモノニシテ歌詞ハ特ニ趣味ニ富ミタルモノ曲譜ハ音域廣カラスシテ成ルヘク爽快ナルモノタルヘシ 祝日、大祭日、其ノ他國家ノ典禮、學校ノ儀式ニ關スル歌曲ハ別ニ其ノ曲名ヲ擧ケスト雖モ機會アル毎ニ豫メ之ヲ授クヘシ

教授上ノ注意

- 一 氣息演習、發音演習、拍子演習、調子演習、發想演習等ハ之ヲ遺漏ナク併セ授クルニハ樂譜ニ依ルコト最モ便ナレハ唱歌教授ノ際歌曲ト附帶シテ之ヲ授クヘシ
- 二 唱歌ヲ授クルニハ常ニ生徒ノ感情ヲ興起セシメヨトニ留意シ其ノ品位ヲ高雅ニシ氣韻ヲ雄大ナラシメシメヨトナカムヘシ
- 三 唱歌ヲ授クルニハ其ノ數ノ多キヲ求メスシテ十分之ニ熟達セシメ其ノ歌詞ヲ永ク記憶セシメシメヨトナカス
- 四 生徒ヲシテ唱歌セシムル際常ニ姿勢ニ注意セシメ又成ルヘク教員及樂器ニ依賴

スルコトナカシムヘシ

五 生徒中聲嘶、咳嗽等ノ疾患アル者及變聲期ニ際セル者ニハ便宜唱歌ヲ免除スヘシ

六 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

風琴、洋琴又ハばいおりん 譜表ヲ記入シタル黑板 掛圖 掛圖臺 調音又ハめどろのーじ 譜表臺

体操

第一學年

每週三時以上

普通体操

矯正術 徒身体操 啞鈴体操

兵式体操

徒手柔軟体操 徒手各個教練 徒手小隊教練

第二學年

每週三時以上

普通体操

矯正術 徒身体操 啞鈴体操 球竿体操 棍棒体操

兵式体操

徒手柔軟体操 徒手各個教練 徒手小隊教練 徒手中隊教練

第三學年

每週三時以上

普通体操

前學年ニ同シ

兵式体操

徒手柔軟体操 徒手各個教練 徒手中隊教練 器械体操號令演習

第四學年及第五學年

每週三時以上

普通体操

前學年ニ同シ

兵式体操

柔軟体操 各個教練 小隊教練 中隊教練 機械体操 號令演習

教授上ノ注意

- 一 体操ヲ授クルニハ先ツ其ノ運動ノ目的筋肉ノ使用部等ヲ精シク説明シ然ル後正確ニ其ノ模範ヲ示シテ之ニ倣ハシムヘシ
- 二 一運動ヲ始メテ授クル場合ニハ精密ニ注意シテ些少ノ誤謬アリトモ寛假スルコトナク之ヲ矯正スヘシ
- 三 体操ヲ授クルニハ生徒ノ体力ニ留意シ過度ノ運動ヲナサシムヘカラス虛弱ナル生徒ニハ特に留意シテ始ヨリ強キ運動ヲナサシメス漸次之ニ堪フルニ至ラシム

ヘシ

- 四 既ニ授ケタル運動ハ反復練習シテ之ニ熟達セシムヘシ然レトモ長時間連續シテ同一ノ運動ノミナサシムヘカラス
- 五 塵埃ノ充滿シタル場所又ハ酷暑ノ時日光ノ直射ヲ受クル場所ニ於テ運動セシムルコトハ之ヲ避クヘシ
- 六 機械体操ハ普通演習及應用演習ヲ課スヘシ進歩セル生徒ニハ特別演習ヲ課スルコトヲ得
- 七 体操教授時間ニ於テ運動ヲ行フコト能ハサルトキハ遊戯ノ方法ヲ説明シ其ノ他体育ニ關スル講話ヲナシ又ハ軍事學ノ大要ヲ授クヘシ
- 八 哑鈴ノ用ハ敏捷ナル運動ヲナサシムルニ在レハ其ノ重量重キニ過クヘカラス根柢ハ之ニ反シ緩徐ニシテ多ク力ヲ要スル運動ヲナサシムルモノナレハ其ノ重量輕キニ失スヘカラス
- 九 機械体操場ノ敷砂ハ常ニ軟ニナシ置クヘシ
- 十 生徒ヲシテ常ニ機械ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ
- 十一 体操教授時間外ニ於テモ常ニ生徒ノ姿勢ニ留意シ又適宜各種ノ遊戯運動ヲ奨勵スヘシ
- 十二 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

中學校教授要目

陸鈴 球竿 棍棒 銃及附屬品 軍刀及附屬品 背囊 喇叭 銃ノ分解品 洗矢
鐵棒 木馬 柵 手摺 跳繩 跳臺 梁木

○高等女學校教授要目

明治三十六年三月九日
文部省訓令第百二號

北海道廳 府縣

今般本省ニ於テ左ノ通高等女學校教授要目ヲ編纂セリ地方長官ハ宜ク各高等女學校
長ヲシテ之ヲ斟酌シ適當ナル教授細目ヲ定メ以テ各學科教授ノ效果ヲ完カラシメ
コトヲ力ムヘシ

高等女學校教授要目

本要目實施上ノ注意

修身	國語	外國語	歷史	地理
數學	理科	圖書	家事	裁縫
音樂	體操	教育	手藝	

高等女學校教授要目

本要目實施上ノ注意

- 一 高等女學校ニ於ケル教授ハ常ニ訓育ト相待テ高等普通教育ノ目的ヲ達セシ
トスルベシ
- 二 教授ハ各學科目固有ノ目的ヲ失ハサルト同時ニ相互ノ連絡ヲ保チ且小學校ノ教
科ト關聯シテ全體ノ統一ヲ圖ルベシ

高等女學校教授要目

- 三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ニ涉リ又ハ形式ニ流ル、コトナク生徒ヲシテ正確ニ理會シ應用自在ナラシメンコトヲ期スヘシ
- 四 學科目ノ性質上止ムヲ得サルモノ、外ハ教科書ヲ用ヒテ之ヲ教授スヘシ
教科書ハ常ニ之ヲ活用セシコトニ留意シ之カ爲ニ結束セシラシコトヲ力ムヘシ
- 五 教科書ハ其ノ選擇ヲ慎ミ濫ニ之ヲ變更スルコトアルヘカラス
教授ハ學年ノ始ニ精クシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陥ラサランコトヲ要ス
- 六 生徒ノ自修ヲ要スル學科目ニ就キテハ豫メ其ノ時間ノ標準ヲ定メ自修ヲシテ一
二ノ學科目ニ偏シ若ハ過度ニ陥ルノ弊ナカラシムヘシ
- 七 修業年限ヲ伸縮シタル場合ニ於テハ適宜本要目ヲ斟酌スヘシ
- 八 教授用備品ハ教授上差支ナキ限必シモ正式精緻ノモノタルコトヲ要セス成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テシコトヲ力ムヘシ
諸學科目ニ通スル備品ハ教授上差支ナキ限成ルヘク之ヲ兼用スヘシ必シモ各別ニ之ヲ備フルコトヲ要セス
- 九 學校所在地ニ圖書館、博物館、工場、試驗場等ノ設アルトキハ之ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス

修身

第一學年及第二學年

每週二時
每週一時

道德ノ要領

- 嘉言善行等ニ徵シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ近易ノ事項ヲ授クヘシ其ノ目ハ概テ次
ノ如シト雖必シモ之ニ拘ラス又整然秩序ヲ設クルコトヲ要セス生徒學力ノ進度ト
時機トニ適應シテ實踐ニ適切ナラシムヘシ
- 生徒心得
 - 當該學校ノ規則、師長ニ對スル心得、生徒ノ本分等
 - 衛生ニ關スル心得
 - 運動ヲ勉ムヘキコト、飲食ヲ節制スヘキコト、身體衣類住居ヲ清潔ニスヘキコト等
 - 修學ニ關スル心得
 - 志操ヲ堅固ニスヘキコト、學業ヲ勵ムヘキコト、困難ヲ忍ブヘキコト等
 - 朋友ニ對スル心得
 - 信義ヲ重シムヘキコト、愛情ヲ以テ交ハルヘキコト、互ニ助力スヘキコト等
 - 起居動作ニ關スル心得
 - 時ヲ貴フヘキコト、秩序ヲ整フヘキコト、體容ヲ重シムヘキコト等
 - 物品ニ關スル心得

物品ノ取扱ヲ鄭重ニスヘキコト、節約利用ニ注意スヘキコト等

家庭ニ於ケル心得

父母ニ孝ナルヘキコト、兄弟ニ友ナルヘキコト、婢僕ニ親切ナルヘキコト等

國家ニ對スル心得

國體ヲ尊崇スヘキコト、國法ニ遵フヘキコト、義勇公ニ奉スヘキコト等

社會ニ對スル心得

長者ヲ尊フヘキコト、公德ヲ尙フヘキコト、自己ノ地位職業ニ對スル責任ヲ重シクヘキコト等

修徳ニ關スル心得

主要ナル諸徳ノ説明及其ノ實踐ノ方法、誘惑ノ危險ナルコト、操持ヲ完クスヘキコト等

キコト等

作法

毎週一時

坐禪、進退、應對、受授、進撤ニ關スル心得及實習

寢食、服裝、訪問迎接、通信、贈答、禮應、公會、吉凶、慶弔、忌服等ニ關スル

心得

第三學年及第四學年

毎週二時

道德ノ要領

自己ニ對スル責務

身體

健康 生命

精神

知情意 理想、趣味等

人格、職業、財產

家族ニ對スル責務

父母、舅姑、兄弟、姊妹、夫婦、子女、親族、祖先、家門、婢僕

社會ニ對スル責務

個人

他人ノ人格、他人ノ身體、財產、名譽、祕密、約束等 恩誼 朋友 長幼、

貴賤、主從等

公衆

協同 社會ノ秩序 社會ノ進歩

國家ニ對スル責務

國體、皇室、國憲、國法、兵役、租稅、教育、公務、公權

人類ニ對スル責務

高等女學校教授要目

課寡孤獨、病者、貧者、罹災者等 遠來人

前記ノ目ハ主トシテ責務ノ對象タルヘキモノナレハ之ニ就キテ主要ナル責務ヲ授クヘン例ヘハ自己ノ精神ノ目ニ於テハ智能ヲ練磨シ迷信ヲ排シ常識ヲ養ヒ情慾ヲ制シ情操ヲ養ヒ意志ヲ鍛鍊スヘキコト等又他人ノ人格ノ目ニ於テハ其ノ權利、思想、信仰、感情、希望等ヲ推重スヘキコト等成ルヘク遺漏ナク授ケンコトヲ要ス責務ト關聯シテ德ヲ説明シ諸責務及諸德相互ノ關係ヲ知ラシメ且嘉言善行等ヲ引用シテ之ヲ心裏ニ浸潤セシムヘン

教授上ノ注意

- 一 格言例話ヲ引用スルニハ必シモ其ノ多キヲ求メス務メテ現代ノ時勢ト生徒ノ境遇トニ適切ナルモノヲ選フヘシ詭激ナル例話ハ成ルヘク之ヲ避クヘシ若シ偶々之ニ及フコトアルトキハ其ノ應用ヲ誤ラシメザラシコトニ留意スヘシ
- 二 責務ヲ授ケルニハ土地ノ風俗習慣生徒將來ノ地位職業等ノ差別アルコトニ注意シ其ノ各方面ニ亘リテ之カ應用ヲ知ラシムヘシ
- 三 第二學年又ハ第三學年ニ於テハ生徒ノ身體及精神漸ク變動ヲ起シ内外ノ誘惑ニ陥リ易キ傾向アルヲ以テ特ニ此ノ時期ニ注意シ堅固ノ志操ヲ養ヒ良習慣ヲ作ラシメンコトヲ力ムヘシ
- 四 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタルトキ又ハ式日紀念日等ニ際シテハ全校又ハ一

部ノ生徒ヲ集メテ臨時教訓スルヲ可トス

- 五 作法ハ故實古禮ニ拘泥セズ現時ノ衣食住ノ情況ニ適合セシメンコトニ注意シ坐禮立禮ヲ併セ授ケ實際ニ應用セシメンコトヲ要ス

國語

第二學年及第二學年

每週六時
每週四時

講讀

讀方 發音ヲ正確明瞭ニシ句讀正シク讀マシムヘシ

解釋 平易ナル口語ヲ用ヒテ語義文義ヲ正確ニ解釋セシムヘシ

暗誦 讀本中ノ佳句、格言、韻文等ヲ適宜暗誦セシムヘシ

講讀ノ材料ハ小學校ニ於ケル國語トフ連絡ヲ保チ今文ヲ用ヒテ修身、歴史、地理、理科、家事、實業、美術、社交等ニ關スル事項ヲ記シタル平正ナル記事文、叙事文、書翰文、唱歌及新體詩等ニシテ生徒知識ノ進歩ニ適合スルモノタルヘシ又便宜歌及正確ナル口語ノ標準ヲ示スヘキ演說談話ノ筆記ヲ加フヘシ

材料ニ配當ハ凡記事文叙事文九、書翰文韻文一ノ比ニ依ルヘシ

文法及作文 每週二時

文法

高等女學校教授要目

普通ナル假名遣ノ大要 品詞ノ分別

文法ハ言文ノ對照ヲ主トシ常ニ口語ト今文トヲ關聯セシメテ今文ニ必須ナル法則ヲ示スヘシ

作文

書取 假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫ヲ正確ナラシメ且速記ニ慣レシムヘシ

複文 口語ヲ今文ニ今文ヲ口語ニ譯セシムヘシ

作文 今文體ノ書翰文、記事文、敘事文ヲ綴ラシムヘシ

作文即題ハ凡隔週一回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

習字

楷書 行書 草書(書翰文等ニ用ナル普通文字ニ止ム)

清書ハ凡隔週一回之ヲ課スヘシ

第三學年

每週一時

每週五時

每週三時

講讀

讀方 發音ノ外抑揚緩急ニ注意スヘシ

解釋 語義文義ノ外文法ニ注意スヘシ

暗誦 前二學年ニ準ス

講讀ノ材料ハ前二學年ニ準シ平正ナル近世文ヲ加フ之ヲ課スル比ハ凡今文六、近

世文四トス

材料ノ配當ハ今文ニ於テハ凡記事文敘事文六、論說文三、書翰文韻文一トシ近世文ニ於テハ凡記事文敘事文七、論說文韻文等三ノ比ニ依ルヘシ

文法及作文

每週一時

文法

前二學年中授ケタル事項ノ復習及補說 文章論ノ大要

作文

書取 前二學年ニ準ス

復文 前二學年ニ準ス

作文 前二學年ニ準ス

習字

每週一時

行書 草書

清書ハ凡隔週一回之ヲ課スヘシ

第四學年

每週五時

講讀

每週四時

讀方 前學年ニ準ス

解釋 前學年ニ準ス

高等女學校教授要目

暗誦 前學年ニ準シ又時トシテハ名家ノ文章ヲモ暗誦セシムルコトアルヘシ、
講讀ノ材料ハ前學年ニ準シ平正ナル近古文ヲ加フ之ヲ課スル比ハ凡今文五、近世
文三、近古文二トス

材料ノ配當ハ前學年ニ準シ近古文ニ於テハ近世文ノ例ニ依ルヘシ
作文 前學年ニ準シ又論說文ヲ加フ
教授上ノ注意 每週一時

- 一 訛言ハ初ヨリ嚴ニ之ヲ矯正スヘシ
- 二 讀本中ノ事項ハ單ニ其ノ意義ヲ解釋スルニ止メス之ニ關スル説明ヲ加ヘ成ルヘ
ク實物、標本、地圖、繪畫等ニ依リ生徒ノ理會ヲ明確ナラシムヘシ
- 三 口演ハ別ニ其ノ目ヲ擧ケスト雖生徒ヲシテ時々其ノ學習或ハ經驗セル事項ニ就
キテ談話解説等ヲナサシメ特ニ言語態度ヲ留意シ思想感情ノ明瞭溫雅ナル表出
ニ慣レシムヘシ
- 四 故事若語等ニ關シテハ初ヨリ簡單ナル説明ヲ與ヘ徒ニ生徒ヲ苦マシムヘカラス
- 五 第四學年ノ講讀ニ於テハ顯著ナル作家ノ文ヲ授クル際便宜其ノ傳記文體等ニ關
シテ簡單ナル談話ヲ交フルモ妨ナシ
- 六 文法ヲ授クルニハ生徒ヲシテ其ノ熟知セル實例ニ就キ歸納的ニ自ラ法則ヲ知ラ

シメモットニ注意スヘシ

- 七 作文ノ文體ハ成ルヘク諸學科目ニ亘リ生徒既修ノ事項ニ就キテ之ヲ選フヘシ
- 八 作文ハ達意ヲ主トシ用語ノ爲ニ思想ヲ拘策スル弊ナカラシムヘシ
- 九 作文其ノ他書寫ノ際ニハ常ニ習字ニ關スル注意ヲ怠ルヘカラス又成ルヘク變體
假名遣ヲ避クヘシ
- 十 適當ノ機會ニ於テ辭書ノ用法ヲ授クヘシ

外國語

各學年ノ教授事項ハ之ヲ分割スルコトナク同一教授時間ニ於テ相關聯シテ之ヲ授ク
ヘシ但シ時宜ニ依リテハ教授時間ヲ分ツコトヲ得ト雖尙其ノ相互ノ連絡ニ留意セン
コトヲ要ス

第一學年及第二學年

每週三時

發音、綴字

會初ハ發音ヲ正シ單語ニ就キテ綴字ヲ授ケ其ノ概要ニ通シタル後ハ讀方會話ニ附帶
シテ之ヲ練習セシムヘシ

讀方、譯解、會話、書取

平易ナル文章

習字

高等女學校教授要目

既修ノ綴字ト關聯シテ之ヲ授ケ又書取ニ依リテ之ヲ練習セシムヘシ

第三學年及第四學年

每週三時

讀方、譯解、書取

平易ナル文章

會話、作文

平易ナル對話、翻譯 簡易ナル記事文、書翰

教授上ノ注意

- 一 外國語ヲ授クルニハ習熟應用ヲ主トシ生徒ノ學力ヲ顧ミスシテ徒ニ課程ヲ進ムルコトアルヘカラス
- 二 發音ハ特ニ外國語教授ノ初期ニ於テ嚴ニ之ヲ正シ又國語ニ存セサル發音ニ留意シテ之ニ習熟セシムヘシ
- 三 讀方ハ既ニ意義ヲ了解セル文章ニ就キテ反復練習セシメ又時々暗誦ヲ課シ發音抑揚、緩急及止聲ニ留意シテ生徒ヲシテ誦讀ニ依リテ文章ノ真意自ヲ見ハル、様之ニ習熟セシムヘシ
- 四 譯解ハ正シキ國語ヲ以テ成ルヘク精密ニ原文ノ意義ニ適應セシムヘシ
- 五 會話ハ讀本中ノ文章又ハ事項ニ因ミテ之ヲ授ケ進ミテハ日常ノ事項ニ就キテ對話ヲナサシメ生徒ヲシテ文字ヲ離レテ英語ヲ了解シ又自己ノ思想ヲ表ハスコト

ヲ習ハシムヘシ

- 六 書取ハ生徒既修ノ文章又ハ其ノ容易ニ了解シ得ヘキ文章ニ就キテ之ヲ授ケ耳ヲ慣ラシ且綴字運筆ヲ練習セシムヘシ
- 七 文法ハ別ニ其ノ目ヲ擧グスト雖教授ノ際便宜實用ニ適切ナル法則ヲ了解セシムヘシ
- 八 外國語ノ意義ヲ了解セシムルニハ成ルヘク實物繪畫或ハ所作等ニ依リテ之ヲ直指シ進ミテハ英語ヲ用ヒテ之ヲ説明スヘシ
- 九 外國ノ人情、風俗、習慣等ニ關シテハ便宜説明ヲ與フヘシ

歷史

第一學年

每週一時

日本歷史

太古

神代、皇基ノ遠慮

上古

神武天皇、崇神天皇、景行天皇、日本武尊、成務天皇、神功皇后、仁德天皇、雄略天皇及皇后、文物工藝ノ傳來、歸化人及其ノ子孫、佛教ノ傳來、大臣大連ノ爭鬪、推古天皇、聖德太子、佛教ノ興隆、工藝、遣唐使、蘇我氏ノ專橫及滅

高等女學校教授要目

中古

大化ノ新政、天智天皇、藤原鎌足、律令ノ撰定、奈良奠都、國史ノ撰修、聖武天皇及皇后、寺院ノ造營、美術、工藝、風俗、和氣清磨及廣蟲、桓武天皇、平安奠都、蝦夷ノ鎮定、嵯峨天皇及皇后、僧最澄及空海、新宗派、文藝、私學ノ設立、藤原氏及他氏、攝政關白、菅原道真、延喜時代、承平天慶ノ亂、外戚ノ跋扈、國文ノ隆盛、才媛、風俗、工藝、地方ノ爭亂、武人ノ興起、後三條天皇、院政、僧徒ノ強暴、保元ノ亂、平治ノ亂、平氏ノ繁榮、諸源ノ舉兵、平氏ノ滅亡

第二學年

每週二時

近古

鎌倉幕府、平政子、承久ノ亂、北條氏ノ執權、元寇、風俗、工藝、文學、新宗派、兩皇統ノ交立、五攝家、元弘亂、勤王諸將、北條氏ノ滅亡、建武中興、足利尊氏ノ反、南北朝、室町幕府、足利義滿ノ稱僭、鎌倉管領、關東ノ分裂、應仁ノ亂、東山時代、美術、工藝、佛教、文學、京都ノ衰替、足利氏ノ末路、群雄割據、武家妻女ノ境遇及行動、明トノ交通、國人ノ冒險、歐州人ノ來航、織田信長、豐臣秀吉及其ノ雄圖

近世

德川家康、關原ノ役、大阪ノ役、江戸幕府、德川氏ノ政略、後水尾天皇、明正天皇、文學ノ復興、德川光圀、通商、貿易、國人ノ海外ニ於ケル事業、天主教、島原ノ亂、元祿時代、風俗、工藝、新井君美、德川吉宗ノ治、田沼父子ノ專權、松平定信、諸藩ノ治附著名ノ藩醫、國學、尊王論、蘭學、海防策、露英人ノ來般、米國使節ノ來朝、假條約、開港攘夷ノ論、安政ノ大獄、井伊直弼、幕府ノ衰頹、討幕論、長州征伐、大政奉還、戊辰ノ役

現代

明治新政、五條ノ誓文、奠都、版籍奉還、廢藩置縣、外交、歐米文物制度ノ採用、征韓論、臺灣征討、樺太及千島、鹿兒島ノ亂、琉球ノ處分、朝鮮ノ事變、天津條約、憲法發布、帝國議會、明治二十七八年ノ戰役、條約改正、北清ノ事變

第三學年

每週一時

東洋歷史

上代ノ支那、周及春秋戰國、孔子、文物、秦、漢ノ統一、文帝、武帝、王氏後漢、三國、兩漢ノ文物、印度、佛教ノ東流、晉、南北朝、隋、唐太宗、武氏玄宗、五代、宋太祖、仁宗、神宗、韓土ノ變遷、遼金ノ興廢、唐宋ノ文藝宗教

高等女學校教授要目

五一七

風俗 蒙古ノ教興、元世祖、明太祖、成祖、朝鮮、明ノ衰運、清ノ興起、元明ノ儒學文藝、歐洲人ノ東漸、清聖祖、高宗、清ノ文藝、英國ノ印度經略、清英ノ交渉、長髮賊、英佛ノ北清侵伐、清露ノ關係、日清韓ノ關係、北清事變、東洋ニ於ケル英露佛獨米

第四學年

每週二時

西洋歴史

上古

ゆじふと、ふねにさわ、あつしりあ、へるしあ、ざりしや、其ノ文物、あれ
 らざんとる大王、ろーまノ興起、ばねに戦役、かゝる、ろーま帝政ノ建立、
 ろーまノ文物、基督教ノ西流、ろーま帝國ノ兩分

中古

びるまにの遷徙、東ろーまトへるしあ、すらぶ諸部落、さらせん帝國、かゝる
 大帝、のるまん、神聖ろーま帝國、ろーま法王、西歐の封建、十字軍、いざり
 すトふらんす、歐洲ニ於ケル文藝復興、諸種ノ發明、地理上ノ發見、ねつとま
 んとるこの侵入、歐洲ニ於ケル宗教改革

近古

いざりす女王のりさへす、三十年戦役、ふらんす王の十四世、學藝風俗

ざりす革命、ペーとる大帝、ふりーどりひ大王、歐洲人ノ殖民、印度ノ情勢、
 北米合衆國ノ獨立

近世

ふらんす革命、なばれねん一世、神聖同盟、あめりか諸國及ざりしあノ獨立
 七月革命、なばれねん三世、くりひ戦争、いたりあノ統一、といつノ統一、北
 米合衆國南北戦争、露土ノ戦争、歐米強國勢力ノ擴張、十九世紀ノ文明
 教授上ノ注意

- 一 歴史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明晰ナル概念ヲ得シムルコトヲ志トシ正確ナ期スル爲徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レサランコトヲ要ス
- 二 歴史ヲ授クルニハ上代ニ簡ニシテ近代ニ詳ナランコトヲ要ス
- 三 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當時ノ其ノ性行、事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒徳性ヲ涵養ニ資センコトヲカムヘシ
- 四 有名ナル詩歌、文章、傳記等ニシテ歴史ノ教授ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ
- 五 特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ稍々詳ニ之ヲ授クルヲ可トス
- 六 外國歴史ハ特ニ我國ト關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 七 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ連絡ヲ知ラシメ又成ルヘク地圖、實物、圖書、標本等

チ示シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ
八 地名人名等ノ稱呼ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス
九 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

御歴代表、對照年表、各國帝王及諸家ノ系統表等ノ掛圖 日本沿革地圖、日本
現代地圖 外國沿革地圖、外國現代地圖

著名ナル城邑戰場其ノ他古蹟ノ寫眞又ハ圖書 著名ナル人物ノ肖像 古人ノ筆
蹟 古文書等ノ實物又ハ模寫

風俗工藝ノ變遷、文化ノ程度等ヲ示ス實物模型又ハ圖書
地理

第一學年

每週三時

日本地理

總說

位置 地勢 氣候 住民 政治 生業 交通

地方誌

北海道、臺灣及府縣ノ區分ニ依レル地方ノ天然上及人事上國民ノ生活ニ關スル
事項

第二學年

每週一時

外國地理

めじあ

總說

位置 地勢 氣候

朝鮮

支那

あじあろしあ

あじあどるこ附あらびあ

いらん地方

いんご

いんご支那半島

まらい諸嶋

大洋洲

總說

前ニ準ス

あーすどらりあ

めらねじあ みくろねじあ ぼりねじあ

高等女學校教授要目

あふりか

總説

前二準六

北部あふりか

中部あふりか

南部あふりか

第三學年

外國地理ノ續キ

よーろつば

總説

前二準八

ろしめ

すうなでん、のろうな

でんまると

とつ

おーすとりのあ、はんがりあ

ばるかん半島

毎週一時

いたりの

すざいす

ふらんす

なまざい

おらんた

いざりす

いすばにあ

はるとがる

あめりか

總説

前二準八

かなだ

北米合衆國

めさして 中央あめりか 西いんと諸島

南あめりか

ふるーちりあ、あるせんちん、ふらしる 其ノ他ノ諸國

結論

高等女學校教授長

世界ニ於ケル人種、言語、宗教、貿易、交通、列強國勢ノ比較

第四學年

每週一時

地文

總說

太陽系、地球ノ形及大サ、地球ノ運動、晝夜、四季、日蝕及月蝕、標準時

陸

沿岸線

地勢及構造

山嶽、原野、谿谷等、泉、河、湖、岩石、礦物、地層

變動

火山附温泉、地震、大陸及山脈ノ形成、沿岸線ノ形成、大氣、水及生物ノ作用

大氣

溫度、氣壓、風、濕氣、氣候及天氣

海

海水ノ色、鹽分等、海底、海水ノ溫度、波、海流、潮汐

生物

分布

教授上ノ注意

- 一 地理ヲ授クルニハ生徒既知ノ事實ヨリ之ニ關係アル未知ノ事實ニ及ボザンコトヲ旨トシ必シモ此ノ要目ノ順序ニ依ルコトヲ要セス
- 二 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較連合ヲ力メ特ニ外國地理ニ於テハ我國ノ狀勢ヲ以テ比較ノ基礎トナスヘシ
- 三 地理ヲ授クルニハ先ツ地平線、方位、地球、經緯線、經緯度、大洋、大洲、島嶼ニ就キ小學校ニ於テ授クル事項ヲ復習スルヲ要ス
- 四 日本地理及外國地理ヲ授クルニハ常ニ地文ニ關スル事項及實業ニ關スル事項ニ留意シ漫ニ細密繁多ナル事實數量ヲ記憶セシムルコトハ之ヲ避クヘシ
- 五 外國地理ニ於テハ我國ト關係多キ地方ニ留意シ此ノ要目ノ中特ニ重要ナル部分ハ更ニ之ヲ細分シテ授クルコトヲ得
- 六 歷史上著名ナル場所及學校所在地方ノ地理ハ稍詳ニ之ヲ授クルヲ可トス
- 七 有名ナル詩歌、文章、紀行等ニシテ地理教授ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ
- 八 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖、標本、寫真、繪畫、表等ニ依リ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ又適當ノ機會ニ於テ地

圖ノ讀ミ方、描キ方ニ關スル簡單ナル解説ヲ與フヘシ
 九 地文ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
 十 地名ノ稱呼ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス
 十一 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

日本及世界地形圖 世界分圖 日本行政區劃圖 日本及世界交通地圖 人種分布
 地圖 日本及世界水陸動物分布圖 日本及世界植物區系圖 日本地質圖 日本及
 世界同溫線圖 日本及世界同壓線圖 日本及世界風向圖 日本及世界雨量圖 日
 本及世界海流圖 同時潮圖 地震及火山分布圖 日本地震圖、天氣圖ノ一例 其
 ノ他人文地文ヲ説明スル地圖
 諸統計ヲ示ス圖又ハ表 風俗、風景其ノ他地文上ノ現象ヲ示ス圖畫又ハ寫眞 土
 地ノ高低、褶曲、斷層等ヲ示ス模型又ハ圖畫、主要ナル造岩石 主要ナル造岩鑛
 物、化石 日本ノ主要ナル農産、林産、水産物及加工品ノ標本、主要ナル貿易品
 ノ標本 其ノ他ノ模型、圖畫、掛圖等
 地球儀 羅針盤 測斜器 晴雨計 寒暖計 日時計
 人文地理ニ關スル事項ハ時々異動ヲ來スコト多クレハ之カ圖表等ハ常ニ其ノ訂正
 増補ニ留意シ最近ノ形勢ヲ示スモノヲラシムヘシ

數學

第一學年

每週二時

算術

整數及小數

命數法及記數法 四則 心算練習

諸等數

時間、尺貫法度量衡、めしとる法度量衡、本邦貨幣、外國度量衡及貨幣ノ主要

ナルモノ 諸等通法及命法 諸等數ノ四則

分數

簡易ナル化法及運算

比及比例

比 單比例

第二學年

每週二時

算術ノ續キ

前學年中授ケタル事項ノ復習

整數

2, 3, 4, 9, 3, 依ル整數ノ可約性 素數 整數ヲ素因數ニ分ツコト 最大公

約數及最小公倍數ヲ求ムル應用

高等女學校教授要目

分數

約分 通分 分數四則 分數ノ特別場合トシテノ小數 分數ヲ小數ニ化スルコ

比及比例

複比例 連鎖法

割合

歩合算 利息算

第三學年

每週二時

算術ノ續キ

前二學年中授ケタル事項ノ復習

比及比例

比例配分 混合法

割合

割引算其ノ他割合ニ關スル日用諸算

開平

第四學年

每週二時

算術ノ續キ

前三學年中授ケタル事項特ニ理由ノ復習

代數ノ初歩及平面幾何ノ初歩ヲ加フルトキハ次ノ例ニ依リテ之ヲ授クヘシ

代數

記號的運算ノ大要 一次方程式 負數

幾何

定規及こんばすノ用法 主要ナル幾何形體ノ種類及構造

角、平行線、三角形、四邊形、圓、正多角形ノ性質附作圖題 面積ノ比較及計リ

方

教授上ノ注意

一 數學ヲ授クルニハ常ニ正確ナル言語ヲ用ヒテ理由方法等ヲ説明セシメ理會ヲ明

瞭ナラシメシムコトヲ力ムヘシ

二 例題ハ成ルヘク生業上適切ニシテ家事上ニ資スヘキモノヲ選ビ歩合算其ノ他割

合ニ關スル日用諸算ノ例題ヲ課スルニハ特ニ注意シテ其ノ事項ヲ説明スヘシ

三 算術ニ於テハ單ニ算法ヲ授クルニ止メス常ニ實算ヲ重シテ正確迅速ニ計算シ得

ルニ至ラシムヘシ

四 計算ニハ成ルヘク驗シテ行ハシメ之ニ對スル自信ヲ深厚ナラシムヘシ

五 算術ヲ授クル際法則ノ理由ヲ十分ニ理會セシメ難キ場合ニ於テハ單ニ其ノ法則

六 代數ヲ授クルニ止ムヘシ
用ニ資セシモノコトヲ力ムヘシ

七 幾何ハ成ルヘシ實驗觀察ノ方法ニ依リテ之ヲ授ケ必シモ嚴格ナル論理ニ拘ルコトヲ要セズ

八 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
日時計 時計 羅針盤 尺 鯨尺 めーとる法尺 三種比較尺(尺、鯨尺、めーとる法尺) 日本秤 めーとる法分銅 臺秤 液量樹 穀量樹 めーとる法量器 外國度量器 黑板用こんばす 黑板用各種ノ定規 卷尺 日本貨幣圖 外國貨幣圖 幾何形體ノ模型

理科

第一學年及第二學年

每週二時

植物

緒論

形態

植物體ノ主要ナル器官 其ノ種々ナル變形 解剖

植物體ノ根本的構造ノ大要

生理

營養、吸收、呼吸、通發、同化、生長、運動、刺戟感應、生殖等ノ大要 動植物生物ノ異同

生態

蟲媒花、風媒花、寄生植物、肉食植物、果實種子ノ散布 植物ト外圍ノ落葉木

常綠木等

分類、應用、分布

植物ノ分類ニ被子植物裸子植物中ノ主要ナル科ノ大要 羊齒植物、蕨苔植物、菌藻植物ノ大要 主要ナル有用植物、有害植物 植物分布ノ大要

前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追ヒテ授クルコトヲ要セス適宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得特ニ季節ニ應シテ適當ナル題目(例ヘハ春季ニ發芽、櫻花、菜花、秋季ニ果實、紅葉、落葉等)ヲ選ヒ之ニ就キテ便宜形態、解剖、生理、生態、分類、應用分布ノ諸項若ハ其ノ中ノ數項ヲ歸納的ニ授クルカ如キハ生徒ノ興味ヲ増シ理會ヲ助クル益アルヘシ

動物

緒論

分類

動物ノ分類 脊椎動物（哺乳類、鳥類、爬蟲類、兩棲類、魚類）節足動物（多足類、蜘蛛類、昆蟲類、甲殼類）軟體動物（瓣鳃類、腹足類、頭足類）蠕形動物 棘皮動物 腔腸動物、海綿動物、原生動物

分類ヲ授クルルニハ顯著ナル適例ヲ示シテ網或ハ主要ナル目ヲ説明スルニ止メ分類區分ノ名稱特徴等ヲ細密ニ授クルコトナク主下シテ動物ノ概念ヲ與フルコトヲ力ムヘシ又必シモ前記ノ順序ニ依ルコトヲ要セス

習性

生徒ノ容易ニ實驗シ又ハ目撃シ得ヘキモノ、自然界ノ現象トシテ趣味アルモノ、人類ニ關係アルモノ

解剖、組織

脊椎動物ヨリ下等動物ニ至ルニ從ヒ其ノ構造漸次簡單ニナルコト 動物體ハ細胞ヨリ成ルコト

發生

自然發生ナキコト 生殖 卵及其ノ發生ノ大要 昆蟲特ニ蠶ノ變態

生態

寄生、共生 保護色、其ノ他ノ彩色等

分布、變遷

散布、分布、變遷ノ大要

應用

寄生蟲及病毒媒介動物ニ對スル注意 農林業上ノ有益動物、有害動物 家畜、人為淘汰、主要ナル水産物、肥料、食料、衣料、藥品等 前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追ヒテ授クルコトヲ要セス或ハ分類ヲ主トシ各類ニ就キテ之ヲ授クルトモ或ハ其ノ一部ハ分類ト同時ニ之ヲ授ケ其ノ他ノ一部ハ別ニ之ヲ授クルトモ妨ナシ

生理及衛生

緒論

消化

口腔、食道、胃、腸、肝臟、脾 消化作用 消化器ノ保護 食物ノ種類及配合

飲料

循環

血液、心臟、動脈、靜脈 血液循環 淋巴管、淋巴腺 脾臟

呼吸

鼻、喉頭、肺臟 呼吸作用 呼吸器ノ保護 空氣 音聲及言語

排泄

腎臟、尿路、尿 皮膚及其ノ作用 皮膚ノ保護、冷水浴

新陳代謝、體温

運動

骨骼、筋肉 姿勢 運動、運動ト新陳代謝トノ關係

神經作用

腦、脊髓、神經及其ノ作用 休息、睡眠

視官、聽官、嗅官、味官、覺官 眼耳ノ保護

第三學年

每週二時

第四學年

每週一時

化學及礦物

緒論

空氣、水

空氣、酸素、窒素 酸化 水、水素 溶解、飽和、結晶 天然水 硬水、軟水

水ノ蒸留 あひむにあ 化學變化、化合及分解 化合物、單體、元素

木炭、食鹽

木炭、獸炭、油煙 炭素、燃燒、發火點 焰、呼吸 動植物ト空氣 食鹽、鹽

化水素 鹽素、漂白粉 無水炭酸、酸化炭素 質量ノ不變 定比例ノ定律

硫黃、硝石、磷、硼砂

硫黃、無水亞硫酸、硫化水素 硫酸、其ノ鹽 硝石硝酸及其ノ鹽 火藥 磷、

磷酸、燐寸 同素體 硼砂、硼酸

金屬、普通ナル礦物

なとりうじ及かりうじ、其の水酸化物、炭酸鹽 かるしうじ、其の酸化物、水

酸化物、炭酸鹽 酸、あるかり、鹽

花崗岩 石英、長石、雲母 磁器、陶器、硝子、漆喰、せめんど 石灰石、石

膏、磷 石灰燧石、弗化水素

亞鉛、錫、鉛、まぐねしうじ あるみにうじ鐵、につける 銅、銀、水銀、黃

金、白金 主要ナル原礦及金屬化合物 合金 冶金術

金剛石、石墨、石炭、石油、琥珀 黃玉、柘榴石、網玉、安山岩、黑曜石等

砂岩、粘板岩等 礦物ト岩石

有機化合物

有機化合物ト無機化合物、沼氣、あせちれん 石油ノ蒸溜 酒精、わーてる、

やりせめん 醋酸、其ノ他ノ脂肪酸 脂肪、油、木蠟 石鹼、蠟燭 砂糖、澱

粉、せるろしす

石炭ノ乾溜、石炭瓦斯、こゝるたゝる、わにりん染料、石炭酸、なふたれん
没食子酸、たんにん 樹脂、こじ あるかるいど 蛋白質 醱酵 腐敗、防腐
及消毒

物理

緒論

運動、力

運動 慣性 力 作用及反動 力ノ釣合 重力 落體、拋射體重心、物體ノ座
リ 槌子、天秤、輪軸、滑車等 振子、時計、宇宙引力

物性

物質、其ノ三態 彈性 毛細管現象 液體ノ壓力 水平面 水準器 重力ニ依
リテ生スル壓力 浮游體 比重 大氣ノ壓力、晴雨計 風船、空氣ばんぶ、水
ばんぶ、さいふおん、霧吹キ等

音

發音體 振動、波動 音ノ波及、速度 反射 強サ、調子、音色 蓄音器、管
絃等

熱

寒暖計、溫度、物體ノ膨脹 熱容量、比熱 蒸氣機關 融解、凝固 融解熱、

寒劑 蒸發、沸騰 氣化熱 濕度、濕度計 傳導、對流、輻射

光

光體 光ノ直進、速度 反鉢 平面鏡、球面鏡、其ノ像、焦點 屈折 ぶりす
じ、れんす、其ノ像、焦點 暗箱、眼鏡、蟲眼鏡、望遠鏡、幻燈等 光ノ分散
、すべくとる 物體ノ色、光澤

磁石

磁石、其ノ兩極 兩極間ノ作用 磁氣ノ感應 羅針盤、地磁氣 磁石ノ作り方

電氣

摩擦ニ依ル發電 導體、不導體 二種ノ電氣、驗電器、電氣ノ分配 尖端ノ作
用 電氣ノ感應、起電機 れいでん瓶、雷電、避雷針、電池、電流 電流計
電磁石、電鈴、電信機、電氣燈、電話機 電解、電鍍電鑄術等

教授上ノ注意

理科ハ分科シテ之ヲ授クト雖其ノ教授ハ成ルヘク一人ノ教員之ヲ擔任シ常ニ分
科相互ノ連絡ニ留意シ生徒ヲシテ自然界ノ統一ニ就キテ明晰ナル概念ヲ得シメ
ンコトヲ力ムヘシ

二 各分科ノ諸論ニ於テハ成ルヘク前分科ノ教材ニ因ミテ準備事項ヲ授ケ分科ノ連
絡ヲ圖リ以テ理科全體ノ統一ニ資スヘシ

三 教材ノ撰擇排列ハ地方ノ情況ニ鑑ミテ之ヲ斟酌スヘシ
 四 理科ヲ授クルニハ成ルヘク實物實驗ニ徹シテ觀察叙述判斷ヲ練習セシムルト共ニ常ニ家事上ノ應用ニ留意セシメ又時々野外教授ヲ行ヒ以テ自然界ヲ愛スル念ヲ起サシムヘシ

五 實驗ハ豫メ之ヲ試ミ置キテ教授ノ際故障ナカランコトヲ期スヘシ
 六 植物動物ハ科學上ノ順序ニ泥ムコトナク生徒日常ノ經驗ニ訴ヘ成ルヘク實物標本ニ因ミテ之ヲ授クヘシ

七 生理及衛生ヲ主眼トシ日常適切ナル事項ヲ授ケテ家事トノ連絡ヲ圖リ生理ハ衛生ヲ理會シ得ルニ止ムヘシ
 八 化學物理ハ生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ特ニ庖厨等ニ於ケル應用ニ留意セシメ定律ノ如キハ成ルヘク實例ニ依リテ其ノ應用ヲ示シ徒ニ高遠ナル説明ニ馳セサランコトヲ要ス

九 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
 植物ニ關スルモノ
 採集網 壓搾板、壓搾紙 生理試驗用具 主要ナル植物ノ乾燥標本及生標本、材體、年輪其ノ他幹ノ構造ヲ示ス標本 主要ナル組織ノふればら—と 主要ナル微細植物ノふればら—と 主要ナル乾燥果實及種子ノ標本 主要ナル肉質果實ノ

あるこ—る標本又ハふをるま—りん標本 顯著ナル果實等ノ模型又ハ圖書植物ヲ原料トシタル加工品
 成ルヘク花壇ヲ設ケ主要ナル植物ヲ栽培シテ教授ノ用ニ供スヘシ
 動物ニ關スルモノ
 捕蟲網 採集箱 展翅板 毒壺 ちつば— 注射器 解剖用鋸 骨鋏 昆蟲飼育箱 哺乳類、鳥類、爬蟲類、魚類等ヲ代表スル動物及其ノ骨格 解剖、生長、變態等ヲ示ス標本模型又ハ掛圖 保護色、寄生、共生等ヲ示ス標本模型又ハ掛圖 主要ナル益蟲害蟲ノ標本 動物ヲ原料トシタル加工品 微細動物ノふればら—と等

生理及衛生ニ關スルモノ
 人體ノ紙塑模型 人體骨格 眼ノ模型 耳ノ模型 主要ナル組織ノふればら—と 病菌ノふればら—と 人體ノ解剖掛圖等
 化學及鐵物ニ關スルモノ
 酒精噴燈又ハ瓦斯燈 硝子鐘、圓筒、時計皿、硝子瓶、二口瓶、三口瓶 劃度圓筒、量液瓶、U字管 塔狀乾燥器、乾燥放冷器 びべつと、びめれつと及其ノ臺 ねどると、其ノ臺 び—か—、漏斗及其ノ臺 冷却器、其ノ臺 漏斗管、安全管 ゆ—ぢをめ—とる 活栓附硝子管 燃燒管 磁製坩堝 鉛皿 硬度計 鐵槌、吹

管、白金線、白金板、硝子切、三角鏡、圓鏡、燃燒匙、坩堝、三脚臺、水槽、瓦斯溜、木製及金屬製架臺、砂皿、水浴、空氣浴、挾止、挾子、濾紙、篋、匙等
 主要ナル鑛物及岩石、鑛物、岩石ヲ原料トシタル加工品
 藥品ハ之ヲ示サスト雖此ノ要目ニ關スル主要ナルモノハ必ス之ヲ備フヘシ
 物理ニ關スルモノ

木製金屬製等ノ球、挺子、輪軸、滑車、斜面、螺旋、重心ヲ示ス種々ノ板、座リ
 ナ説明スル種々ノ立體、天秤、日本秤、尺、めしとる法尺、日本樹五〇〇及五
 〇〇〇ノ硝子製量器、鉛製分銅數箇(五〇瓦、一〇〇瓦、一さる瓦等各數箇)
 取附萬力、手端、毛細管數種、木工道具、金工道具、ばすかるノ原理ヲ示ス器
 ふらま水壓器、連通水平器、水準器、上壓ヲ示ス器、あるきめですノ原理ヲ示ス
 器、浮沈子、浮秤、まくでふる半球、晴雨計用硝子管、晴雨計、空氣ばんぶ及
 附屬品、水ばんぶ、波動ヲ示ス裝置、音叉數種、ものこいど、風琴管、音ノ波及
 ナ示ス器、さばーる齒輪、音器、摩擦ニ依ル發熱ヲ示ス眞鍮管、熱ノ傳導比較
 器、比熱試驗用金屬球數種、金屬ノ膨脹ヲ示ス器、乾濕球寒暖計、蒸氣機關模型
 光線ノ反射ヲ示ス器、平面鏡、凹凸球面鏡、光線ノ屈折ヲ示ス器、ふりすじ、れ
 んす數種、顯微鏡、望遠鏡ノ理ヲ示ス裝置、色ノ混合ヲ示ス器、へりおすたつと
 磁鐵鐵、棒磁石、馬蹄磁石、羅針盤、磁針、鐵粉、鐵棒、硝子棒、封蠟棒、蠟

皮、毛布片、絹布片等、電氣振子、絶緣臺、電氣分配ヲ示ス空球、ふむらでー袋
 金箱驗電器、電氣感應ヲ示ス器、絶緣シタル導體、電氣盆、ういひしやーすと
 起電機、れいでん瓶數箇、放電又、ふんせん、だにゐる等ノ電池各數箇、電流計
 電磁石、もーるす電信機模型、電鈴、白熱電燈、あーく燈模型、電話機、電解
 器、感應こいる、真空管、はんどだいなも、絶緣銅線數種
 共用ニ屬スルモノ

顯微鏡、顯眼鏡、解剖用具(解剖針、解剖刀、解剖鉗、解剖皿、びんせつと等)
 寒暖計、暗箱、實體鏡、酒精燈、乳鉢、乳棒、蒸發皿、試驗管、其ノ臺、試驗管
 ふらつと、硝子瓶、ふらつと、硝子管、硝子棒、硝子板、こるく、こるく壓搾器
 こるく穿孔器、こむ管、金網、針金等

圖 畫

第二學年

每週一時

自在書、寫生畫、隨書

簡單ナル幾何形體ノ器具、植物ノ類

第二學年

每週一時

自在書

高等女學校教授要目

寫生畫、臨畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ動物ノ類ヲ加ヘ又生徒學力ノ進度ニ應シテ便宜
彩色ヲ施スコトヲ授クヘシ

幾何畫

線、角、單形、常用曲線等ニ關スル描法

第三學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ彩色ヲ施スコトヲ授クヘシ

本學年ニ於テ便宜平面及簡單ナル立體ニ關スル投影畫法、陰形畫法及透視畫法ノ
大要ヲ説明シ寫生畫ノ教授ニ資スヘシ

第四學年

每週一時

自在畫

寫生畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ景色人物ニ及ホスヘシ

考案畫

自在畫及幾何畫ニ於テ習得シタル技能ヲ應用シテ圖案ヲ構成セシムヘシ

本學年ニ於テハ便宜彩色圖案其ノ他美術上ノ事項ニ關スル説明ヲナスコトアル
ヘシ

本要目ハ幾何畫ヲ授クル場合ニ就キテ示スト雖之ヲ授ケサルトキハ適宜斟酌ヲ加フ
ヘシ

一 教授上ノ注意

- 一 臨本ハ正格ナル畫法ニ基キ奇癖ニ陥ル嫌ナキモノタルヘシ
- 二 臨畫ハ教授ノ際成ルヘク實物ヲ示シテ臨本ト對照シ生徒ヲシテ畫中形相ノ意義
ヲ充分ニ理會セシメタル後其ノ布置描法ヲ授クヘシ
- 三 寫生畫ハ模型又ハ實物ニ就キテ行フモノニシテ之ヲ授クルニハ先ツ生徒ヲシテ
物體ノ位置距離光線ノ關係ニ依リテ形相ニ變化アル所以ヲ明ニセシメ然ル後之
ヲ正確ニ描寫スルコトヲ教ラヘシ
- 四 寫生ハ物ノ形相ヲ正確ニ描寫スルヲ目的トス然レトモ又徒ニ物ノ細部ニノミ拘
泥スルカ如キハ之ヲ避ケサルヘカラス
- 五 幾何畫ハ實際ノ應用ヲ主トシテ之ヲ授ケ自在畫トノ連絡ヲ圖ルヘシ
- 六 考案畫ノ目ハ第四學年ニ之ヲ舉クト雖便宜他ノ學年ニ於テモ之ヲ課シ意匠ノ練
習ヲナサシムヘシ
- 七 臨畫及寫生畫ノ教授時間ニ於テ時々記憶畫ヲモ課シ形相觀察ノ練習ニ資セシム

- 八 教材ハ地方ノ狀況ニ鑑ミテ斟酌スヘシト雖成ルヘク應用ノ廣キモノ又ハ生徒ノ趣味ヲ養フニ足ルモノヲ選ビ其ノ高尚ニ過クルモノ或ハ鄙陋ニ渉ルモノハ之ヲ避クヘシ
 - 九 生徒ヲシテ成ルヘク名畫其ノ他美術上ノ作品又ハ其ノ正確ナル複製物ヲ見シメ之ニ關シテ簡單ナル説明ヲナスヘシ
 - 十 生徒ヲシテ常ニ姿勢ヲ正シクセシメ又器具ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ
 - 十一 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
- 臨本 參考トナルヘキ美術作品又ハ其ノ複製物 幾何形體、裝飾紋樣、動物植物及人物ノ模型 寫生用實物 書板、筆洗、繪具皿、圖引器械 黑板用乙んばす及各種ノ定規、投影畫法及透視畫法ノ説明ニ用フル簡單ナル裝置

家事

第三學年

每週二時

緒論

家事ニ於ケル女子ノ職分 善良ナル家風ヲ作ルニト

衣食住

衣服

材料ノ選擇 調理、保存、洗濯、

食物

成分、性質 常用食品(米、麥、粟、飯、麵類、麩、大豆、豆腐、味噌、醬油、小豆、菓子、果實、野菜、魚、鳥、卵、牛豚肉、乳、油、食鹽等)嗜好品 飲料水、淨水法、水ニ依ル病毒傳播 獻立 食器、庖厨具 割烹、其ノ實習(煮物、燒物、蒸物、汁物、漬物、生物)貯藏

住居

選擇 土地、家屋 方向、採光、暖房、換氣、室房ノ配置、裝飾 門牆、庭園 井、掃除、保存 家具、什器

第四學年

每週二時

養老及青兒

養老

衣食住ノ注意 起居ノ介抱 精神ノ保養

青兒

哺乳 生齒 食物 衣服 居所 沐浴 運動 睡眠 疾病 言語、動作 談話
遊戲、玩具 就學
看病、傳染病ノ豫防

衣食住ノ注意 介抱 藥用 危篤ノ場合 救急療法
傳染病及其ノ豫防 清潔方法 消毒方法
整理及經濟

主婦ノ心得 勤勉、節儉、秩序、豫見、周密、清潔婢僕ノ選ヒ方、扱ヒ方、仕事ノ配當、給料

家産 收支豫算 必要ナル費用、冗費 貯蓄 保險

家計簿記 出納ノ科目、記入ノ方法、帳簿ノ整理

教授上ノ注意

一 家事ヲ授クルニハ理論ニ偏セス實際ニ適切ナラシメンコトヲ旨トシ他ノ學科目

ニ於テ生徒ノ學習シタル事項ハ成ルヘク之ヲ利用センコトヲ力ムヘシ

二 割烹ノ實習ハ第三學年ニ於テ凡十回之ヲ課スルヲ常例トスレトモ便宜第四學年

ニ涉リ之ヲ課スルモ妨ナシ

三 家計簿記ハ日用ニ適切ナル事例ニ依リテ練習セシムヘシ

四 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

衛生試驗表類 衣服地質標本 衣服洗濯用器具及藥品、保存用藥品 割烹實習用

器具 食品標本 防腐劑、防臭劑 家屋圖 體溫器 灌腸器 吸入器 糊帶材料

救急函 消毒用器具及藥品 哺乳器 牛乳煮沸器 其ノ他看護用器具

裁縫

第一學年

每週四時

運針 素縫、本縫

本縫男女單衣 部分縫、裁チ方、積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

本裁女袴 部分縫、裏ノ裁チ方、積リ方、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

本裁女綿入、部分縫、標附ケ方、綿ノ入レ方、縫ヒ方順序、仕立方

子供帶仕立方

繕ヒ方 綿布

服地 名稱、地質、染色、柄合、丈、幅等

第二學年

每週四時

運針 前學年ニ準ス

本裁男袴 部分縫、裏ノ裁チ方、縫ヒ方順序、仕立方

本裁男綿入仕立方ノ解説

洗濯張リ物ノ仕立方

腹合帶仕立方

片面物三ツ身裁チ方及中幅大幅物ニテ小裁中裁本裁ノ裁チ方積リ方ノ解説

小裁又ハ中裁綿入仕立方

本裁女綿入羽織、本裁男袴羽織 部分縫、裁チ方、積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

本裁男綿入羽織仕立方ノ解説

筒袖及袖無綿入羽織 裁チ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

縫ヒ方 絹布、毛布

服地 前學年ニ準ス

第三學年

毎週四時

本裁男單羽織 部分縫、裁チ方、積リ方、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

西洋前掛 部分縫、裁チ方、縫ヒ方順序、仕立方

女袴 裁チ方、積リ方、縫ヒ合セ方、襷取リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

小裁中裁女袴ノ裁チ方、積リ方、寸法ノ解説

小裁中裁羽織 裁チ方、積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序ノ解説

小裁中裁本裁被布 裁チ方、積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、小裁綿入被布

ノ仕立方 附飾紐ノ結ヒ方

片面物及中幅大幅物ニテ羽織被布ノ裁チ方ノ解説

被布合羽 裁チ方、積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

みしんノ用法

第四學年

毎週四時

しやつ、おぼん下 裁チ方、積リ方、縫ヒ方順序、仕立方

男袴 裁チ方、積リ方、縫ヒ合セ方、襷取リ方、腰立糸掛ノ順序、寸法、標附ケ方

縫ヒ方順序、仕立方 小裁中裁男袴ノ裁チ方、積リ方、寸法ノ解説

足袋、子供腹掛、股引ノ類 裁チ方、縫ヒ方順序、仕立方

丸帶仕立方 男帶仕立方ノ解説

小袖仕立方

夜具 裁チ方、積リ方、寸法、綿ノ分量、標附ケ方、縫ヒ方順序、縫形ニテノ仕立方

方

みしんノ用法

手藝ヲ加フル爲ニ教授時數ヲ減スルトキハ前記ノ事項ヲ斟酌シテ之ヲ授クヘシ

教授上ノ注意

一 裁縫ヲ授クルニハ土地ノ情況ニ適應セシムトシ必シモ此ノ要目ノ順序ニ

依ルコトヲ要セシム

二 他ノ學科目特ニ數學ニ於テ生徒ノ學習シタル事項ハ成ルヘキ裁縫教授ニ資セシム

コトヲ力ムヘシ

三 材料ノ品質ハ第一學年及第二學年ニ於テハ專ラ綿布類ヲ用ヒシムヘシ

四 模範ナルハ其寶物離形等ヲ示シテ其ノ要點ヲ説キ生徒技能ノ發達ヲ助クヘシ
五 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

衣服名稱圖、裁チ方圖、標附ケ方圖、衣服又ハ其ノ離形、衣服ノ部分又ハ離形、服地標本、絲標本、鍔、其ノ臺、火熨斗、其ノ臺、裁板、裁庖刀、定規、霧吹、鹽、壓板、張板、鍔、鯨尺、鍔、綿延みしん等

音樂

第一學年

每週二時

普通樂譜法、長音階、階名、音符、賦符、譜表、加線、小節、縱線、すらし、たい、嬰、變、本位記號、延聲記號、簡易ナル發想記號等

基本教練

呼吸練習、緩吸緩呼、緩吸急呼、急吸緩呼、急吸急呼

聲音練習、發聲、母音、聲區ノ調和、長音階、三度音程、弱中強ノ唱ヒ方等

聲域ハ小字ノリニ點ハマテ、拍子ハ二拍子及四拍子、音符及賦符ハ一拍以上

ノモノヲ用フ

唱歌、簡易ナル單音唱歌凡二十曲

第二學年

每週二時

普通樂譜法、前學年ニ準シテ又音名、音部記號、調子記號、拍子記號、短音階及普通

ニ用ヒタル樂譜略記法、速度標語等ヲ加フ

基本教練

呼吸練習、前學年ニ準ス但シ急吸緩呼ヲ主トシ呼吸ノ際一定ノ高度ニ於テ母音ヲ

合唱セシメ又數ヲ呼ハシムルコトアルヘシ

聲音練習、母音、三和音、四度音程、五度音程、旋律的短音階、弱中強、れがー

と及すたつかとノ唱ヒ方等

聲域ハ小字ノリニ點ヘマテ、拍子ハ既修ノモノ、外三拍子ハ六拍子ヲ併用シ

音符及賦符ハ一拍以上ノモノヲ用フ

唱歌、前學年ニ準シテ程度稍々進ミタル單音唱歌凡十五曲及簡易ナル二部輪唱凡五

曲

第三學年

每週二時

基本教練

聲音練習、子音、六度音程、上行漸弱、下行漸強、上行漸強、下行漸弱、三音變

拍子及しんこば、高音部中音部ノ唱ヒ方等聲域拍子等ハ前學年ニ同シ

聽音練習、簡易ナル音程ニ於ケル五個乃至七個音ヲ連續

唱歌、前學年ニ準シテ程度稍々進ミタル單音唱歌、二部及三部輪唱、二部合唱通シ

テ凡十五曲